塩竈市立病院経営強化プラン
令和７年度の取組状況の評価について

令和８年９月２９日

塩竈市立病院

目　次

「塩竈市立病院経営強化プラン」令和7年度の評価にあたって 3
1. 患者数・診療単価、医業収益の概要 4
(1) 患者数・診療単価等の概要 4
①入院の概要 4
②外来の概要 6
(2) 医業収益目標の達成状況 8
2. 経営強化プラン数値目標の達成状況及び取組状況 11
(1) 役割・機能の最適化と連携の強化 11
①医療機能や医療の質、連携強化等に係る数値目標の達成状況 11
②目標達成に向けた具体的な取組 12
(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革 24
(3) 経営形態の見直し 25
(4) 新興感染症の拡大時等に備えた平時からの取組 25
(5) 施設・設備の最適化 26
(6) 経営の効率化等 27
①経営指標に係る数値目標の達成状況 27
②経常収支比率及び修正医業収支比率に係る数値目標の達成状況 27
③目標達成に向けた具体的な取組 27
3. 令和7年度決算見込みの概要 36
(1) 令和7年度決算見込みの概要 36
(2) 収益的収支の概要 37
(3) 資本的収支の概要 39
(4) 一般会計繰入金の概要 40
(5) 収益的収支の決算見込みとプラン比較 41
(6) 資本的収支の決算見込みとプラン比較 42
(7) 一般会計繰入金のプラン比較 42
4. 総合的な評価 43
(1) 総合的な評価 43
(2) 総評 45
【参考資料】 46
(1) 塩竈市立病院事業の主な経営指標 46
①主要な経営指標 46
②医師一人当たりの患者数 46
(2) 宮城県内主要公立病院との比較 47
①修正医業収支比率及び修正医業収益 47
②他会計繰入金対総収益比率 47
③患者１人当たり診療単価 48
塩竈市立病院事業調査審議会委員名簿 49

「塩竈市立病院経営強化プラン」令和７年度の評価にあたって

塩竈市立病院は、令和６年３月に策定した「塩竈市立病院経営強化プラン」に基づき、役割・機能の最適化と連携の強化や医師・看護師等の確保と働き方改革、新興感染症の拡大時に備えた平時からの取組、経営の効率化等に取り組み、公立病院としての役割を果たしてきた。

今般、病院経営を取り巻く状況は、高齢化の進展等による医療需要の変化に加え、物価高騰や賃金上昇に伴う委託費及び人件費の増加等により、診療報酬改定による収入の伸びが費用の増加に追いつかず、全国的に極めて厳しい状況にある。

そのような中、令和７年度は、周辺医療機関、介護施設及び地域包括支援センター等との連携を深め、紹介患者及び他院からの入院患者の積極的な受入れを推進した結果、紹介患者数、逆紹介患者数及び他院からの入院患者受入件数等で一定の成果が見られた。また、病院経営会議及び経営健全化会議において、患者数や収益状況、救急患者の受入状況等を共有し、課題の早期把握・改善に努めるなど、経営改善に向けた取組が行われている。

さらに、高齢者救急への対応及び在宅復帰支援体制の強化を図るため、令和８年１月から一般病棟のうち１７床を地域包括ケア病床へ機能転換し、回復期（現在は包括期）医療の充実を進めた。地域包括ケア病棟における在宅復帰率は目標を上回り、訪問診療等の在宅医療、ＡＣＰの普及啓発、多職種協働による退院支援等を通じ、急性期医療から回復期医療、在宅医療へとつながる医療やケアの提供に努めていることは評価できる。

施設設備の面では、老朽化対策を進めるとともに、令和８年度からの病院改修工事に向けた設計業務を委託する等、療養環境の向上と安心・安全な医療環境の確保に向けた基盤整備を推進している。

医業収益では、入院収益は、診療単価が目標を上回り、入院患者数が前年度から３，０４７人増加したことから、前年度から約６，６５９万円増加したが、計画から約５，１０１万円下回った。外来収益は、診療単価が目標を上回ったものの、患者数の減少により前年度から約３，８６４万円、計画から約１，８６６万円下回った。医業収益全体としては、前年度から約１，５０１万円増加したが、計画から約８，９０３万円下回った。一方、人事院勧告への対応に伴う給与費の増加、物価高騰や賃金上昇による経費等の増加及び減価償却費の増加により、医業費用は計画を約８，０２７万円上回った。

その結果、国の緊急支援補助金の受入れ等により、経常損益及び当年度純損益の損失額は前年度から大幅に改善したが、前年度に引き続き赤字決算となった。しかしながら、全国的に病院経営が厳しい状況にある中で損失額を改善したことは、これまでの経営努力の成果と捉えることができる。

今回の評価では、経営強化プランに基づく各種数値目標について各委員が５段階評価を行い、目標達成度として示すとともに、今後の経営改善に向けた意見を集約した。本評価報告が、塩竈市立病院が市民に愛され、地域にとって欠くことのできない「信頼できる」自治体病院として、今後の病院運営の一助となることを期待する。

令和８年９月

塩竈市立病院事業調査審議会
会　長　　藤　森　研　司

１．患者数・診療単価、医業収益の概要

（１）患者数・診療単価等の概要

①入院の概要

今年度は、増加する高齢者の救急搬送や在宅復帰支援体制の強化のため、令和８年１月より一般病棟のうち１７床を地域包括ケア病床に機能転換し、回復期医療の充実を図りました。これにより病床機能の内訳は、急性期機能５４床、回復期機能１０７床となりました。

入院については、延べ入院患者数が前年度より３，０４７人増の４４，５９６人、１日当たりの患者数は前年度から８．４人増の１２２．２人となり、病床利用率は前年度から５．２ポイント増の７５．９％となりました。

病棟別としては、一般病棟では入院件数が２２件減少しましたが、平均在院日数が１日延伸したため、延べ入院患者数は前年度を１，３４７人上回る１４，８５１人、一日当たりの入院患者数は４０．７人となりました。また、地域包括ケア病棟では、入院件数が１０８件減少しましたが、平均在院日数が約３～４日延伸したため、延べ入院患者数は前年度を１，７００人上回る２９，７４５人、一日当たりの入院患者数は８１．５人となりました。

診療科別としては、内科は、前年度から１，６８９人増の２６，６０６人となり、整形外科は２，００９人増の４，３５６人となりました。令和６年度の診療体制の拡充が、入院患者数の安定につながっています。

月別の１日当たりの入院患者数は、５月を除き１１５人～１３０人台を維持しており、過去三年間で最も安定した推移となりました。

診療単価は、新型コロナ感染症患者の減少に伴い、前年度から１，１０２円減、プラン目標を１，１４４円上回る３６，８９４円となりました。

病棟別の延べ入院患者数

	年間延べ入院患者数（人）			1日当たりの入院患者数（人/日）		
	R7年度	R6年度	増　減	R7年度	R6年度	増　減
一般病棟（71床）※	14,851	13,504	1,347	40.7	37.0	3.7
地域包括ケア病棟計	29,745	28,045	1,700	81.5	76.8	4.7
地域包括ケア病棟①（52床）	16,792	15,825	967	46.0	43.4	2.6
地域包括ケア病棟②（38床）	12,953	12,220	733	35.5	33.4	2.1
計（161床）	44,596	41,549	3,047	122.2	113.8	8.4

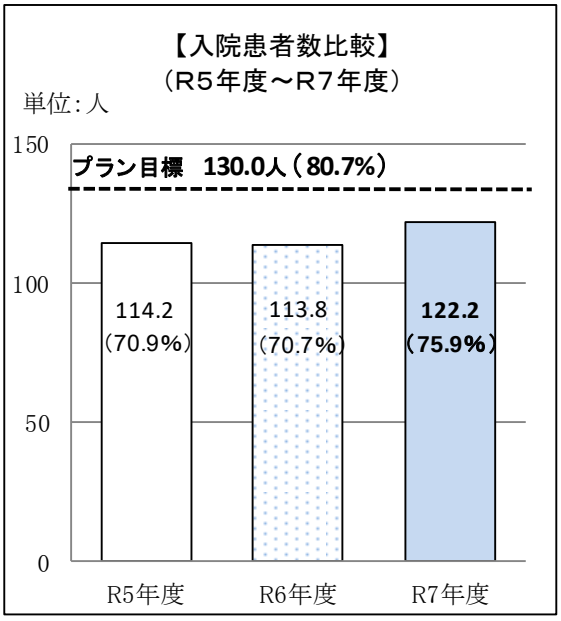
病棟別入院件数と平均在院日数

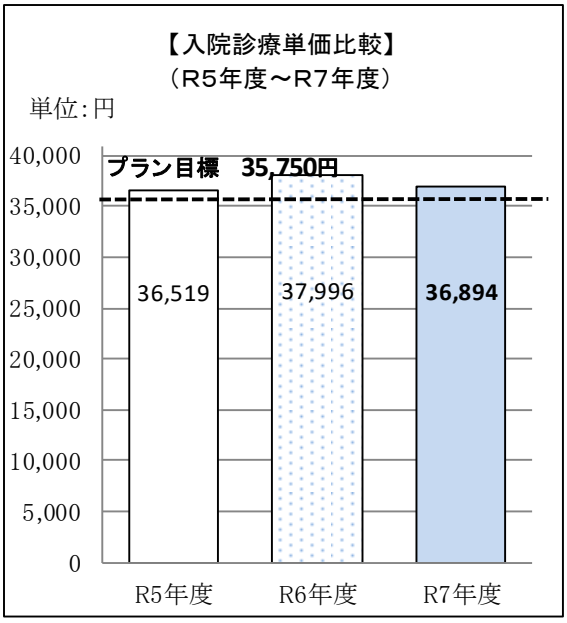
	年間入院件数（件）			平均在院日数（日）		
	R7年度	R6年度	増　減	R7年度	R6年度	増　減
一般病棟（71床）※	887	909	△ 22	16	15	1
地域包括ケア病棟計	874	982	△ 108	-	-	-
地域包括ケア病棟①（52床）	521	595	△ 74	25	21	4
地域包括ケア病棟②（38床）	353	387	△ 34	28	25	3
計（161床）	1,761	1,891	△ 130	-	-	-

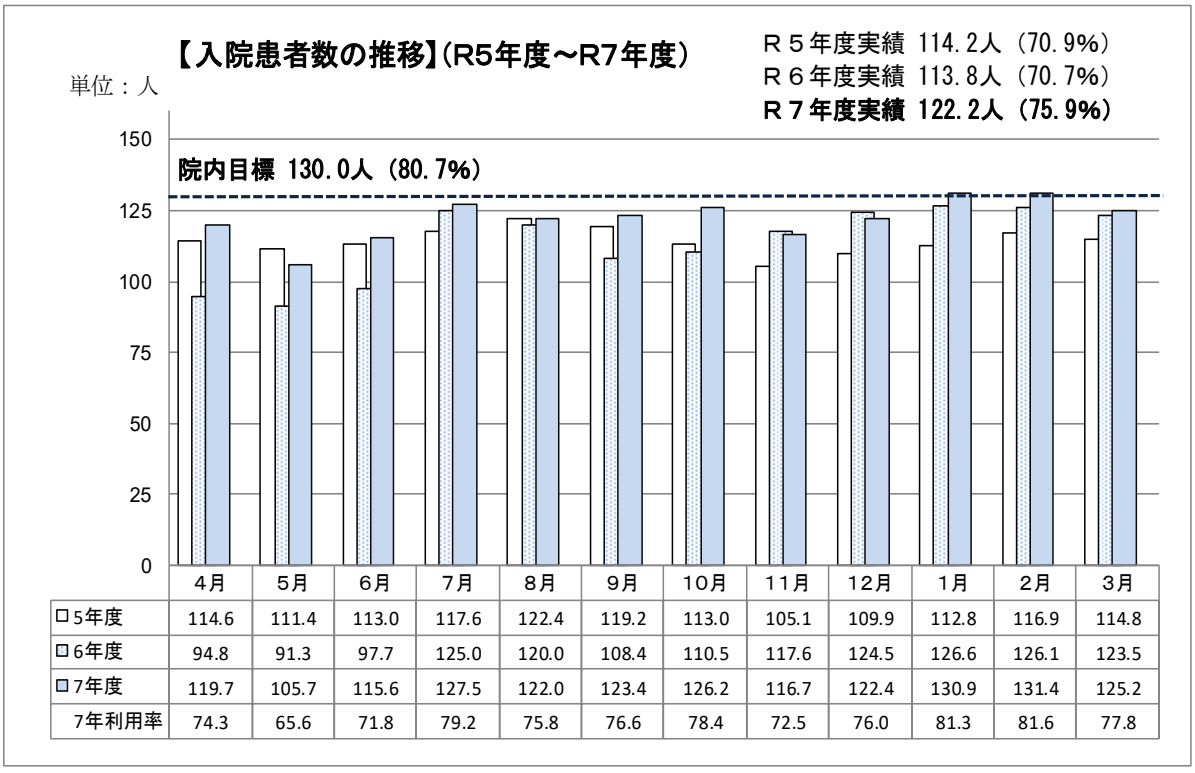
※一般病床71床の内、17床は令和８年１月より地域包括ケア病床として運用

診療科別の入院患者数

	延べ入院患者数(人)			1日当たりの入院患者数(人/日)		
	R7年度	R6年度	増　減	R7年度	R6年度	増　減
内　　科	26,606	24,917	1,689	72.9	68.3	4.6
外　　科	13,252	13,849	△ 597	36.3	37.9	△ 1.6
整　形　外　科	4,356	2,347	2,009	11.9	6.4	5.5
皮　　膚　　科	183	245	△ 62	0.5	0.7	△ 0.2
眼　　科	199	191	8	0.6	0.5	0.1
計	44,596	41,549	3,047	122.2	113.8	8.4







	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
□5年度	114.6	111.4	113.0	117.6	122.4	119.2	113.0	105.1	109.9	112.8	116.9	114.8
□6年度	94.8	91.3	97.7	125.0	120.0	108.4	110.5	117.6	124.5	126.6	126.1	123.5
□7年度	119.7	105.7	115.6	127.5	122.0	123.4	126.2	116.7	122.4	130.9	131.4	125.2
7年利用率	74.3	65.6	71.8	79.2	75.8	76.6	78.4	72.5	76.0	81.3	81.6	77.8

②外来の概要

外来については２２の診療科を維持し、多様な疾患に対応できる体制を継続しました。

また、救急体制については平日日中の救急車の積極的な受入れや、在宅療養患者や介護施設等からの緊急受入要請に対する迅速な対応に努めました。

一方、発熱患者の減少や全国的な傾向としてみられる軽傷時の受診控えやセルフケア意識の高まりなどにより、延べ外来患者数については、前年度よりも２，２７６人減の５３，７８３人、１日当たりの患者数は８．５人減の２２２．２人となりました。

診療科別の延べ外来患者数では、前年度と比較し、整形外科が５９４人の増、内科５７９人、神経内科６７７人、外科６９２人の減となりました。

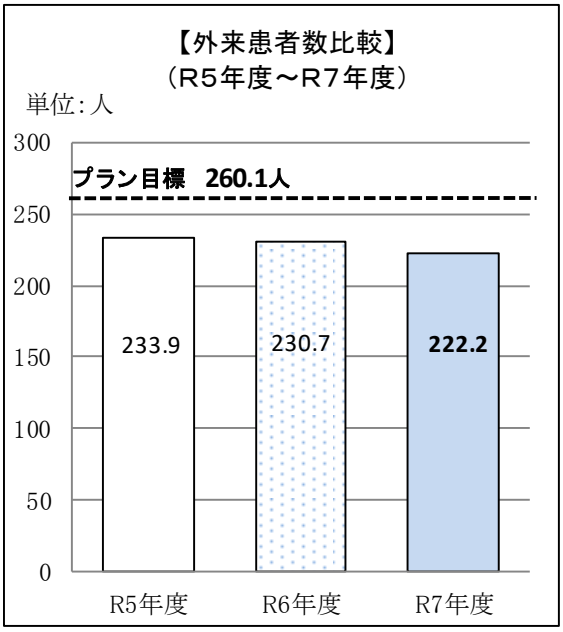
診療単価は、発熱患者やＣ型肝炎患者の減少等により、前年度から１７６円減、プラン目標を１，５４４円上回る１２，６４４円となりました。

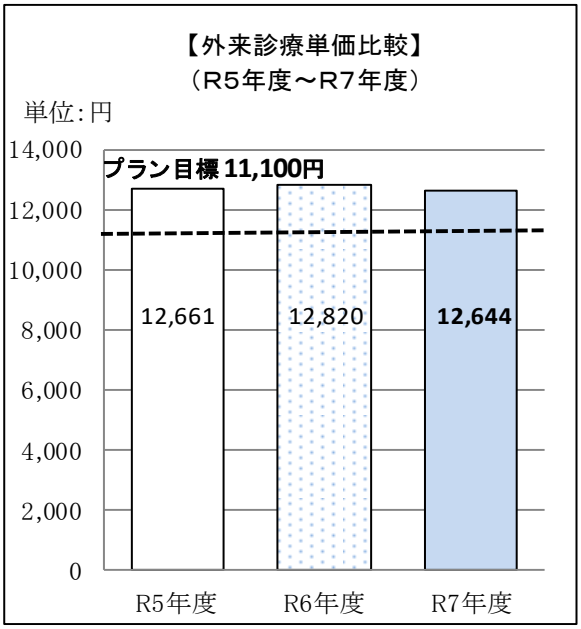
月別外来患者数は、一日当たり患者数が１１月にプラン目標を１６．１人上回る２７６．２人となりましたが、その他の月は、２０４人～２３８人で推移しました。

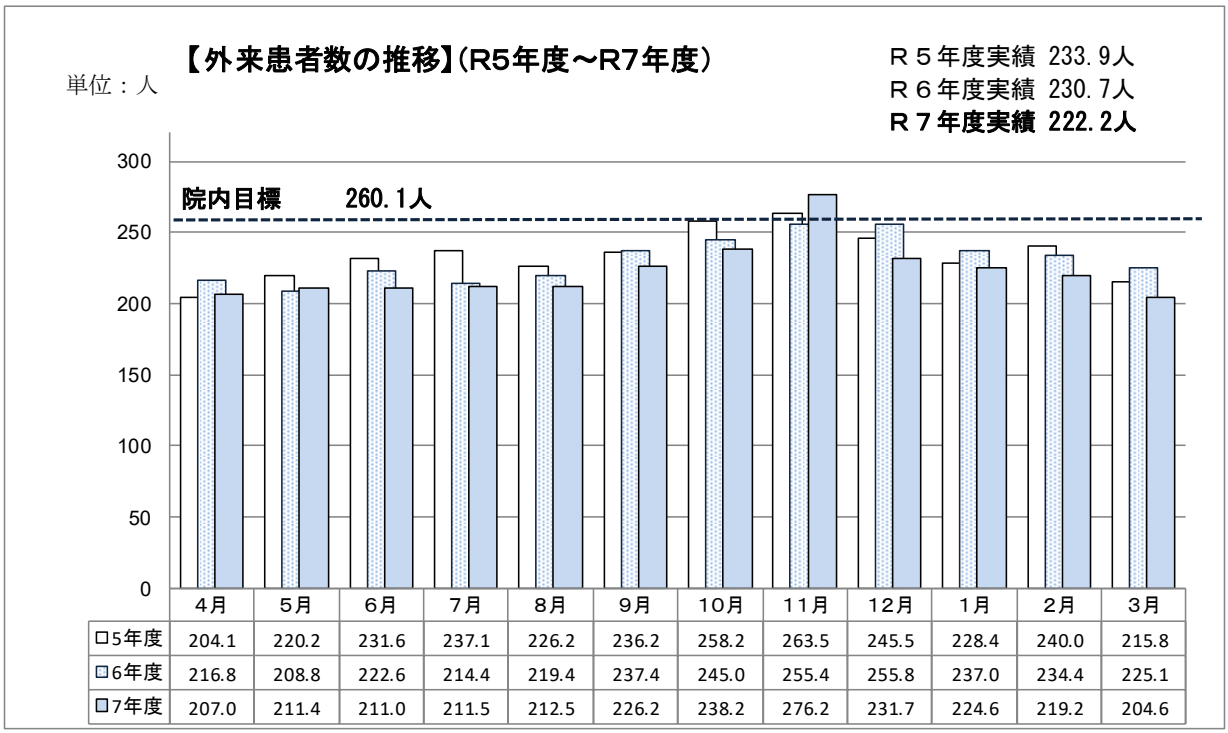
診療科別の外来患者数

（単位：人）

	延べ外来患者数			1日当たりの外来患者数		
	R7年度	R6年度	増　減	R7年度	R6年度	増　減
内　　科	15,145	15,724	△ 579	62.5	64.7	△ 2.2
消化器内科	4,684	5,153	△ 469	19.4	21.2	△ 1.8
呼吸器内科	1,266	1,311	△ 45	5.2	5.4	△ 0.2
循環器内科	4,425	4,611	△ 186	18.3	19.0	△ 0.7
神経内科	195	872	△ 677	0.8	3.6	△ 2.8
外　　科	6,064	6,756	△ 692	25.1	27.8	△ 2.7
整形外科	6,721	6,127	594	27.8	25.2	2.6
皮　膚　科	3,468	3,857	△ 389	14.3	15.9	△ 1.6
小　児　科	3,951	3,698	253	16.3	15.2	1.1
泌尿器科	1,796	1,803	△ 7	7.4	7.4	0.0
耳鼻咽喉科	2,132	2,160	△ 28	8.8	8.9	△ 0.1
眼　　科	3,142	3,347	△ 205	13.0	13.8	△ 0.8
婦　人　科	41	17	24	0.2	0.1	0.1
リウマチ科	753	623	130	3.1	2.5	0.6
計	53,783	56,059	△ 2,276	222.2	230.7	△ 8.5







	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
□5年度	204.1	220.2	231.6	237.1	226.2	236.2	258.2	263.5	245.5	228.4	240.0	215.8
□6年度	216.8	208.8	222.6	214.4	219.4	237.4	245.0	255.4	255.8	237.0	234.4	225.1
□7年度	207.0	211.4	211.0	211.5	212.5	226.2	238.2	276.2	231.7	224.6	219.2	204.6

（２）医業収益目標の達成状況

入院収益では、診療単価は目標を上回りましたが、一日当たりの患者数が目標を下回ったため、収益目標を約５，１０１万円下回る、約１６億４，５３１万円となり達成率は９７．０％となりました。前年差では、約６，６５９万円の増となりました。

外来収益では、一日当たりの患者数が目標を下回ったため、収益目標を約１，８６６万円下回る約６億８，００４万円、達成率は９７．３％となりました。前年差では、約３，８６４万円の減となりました。

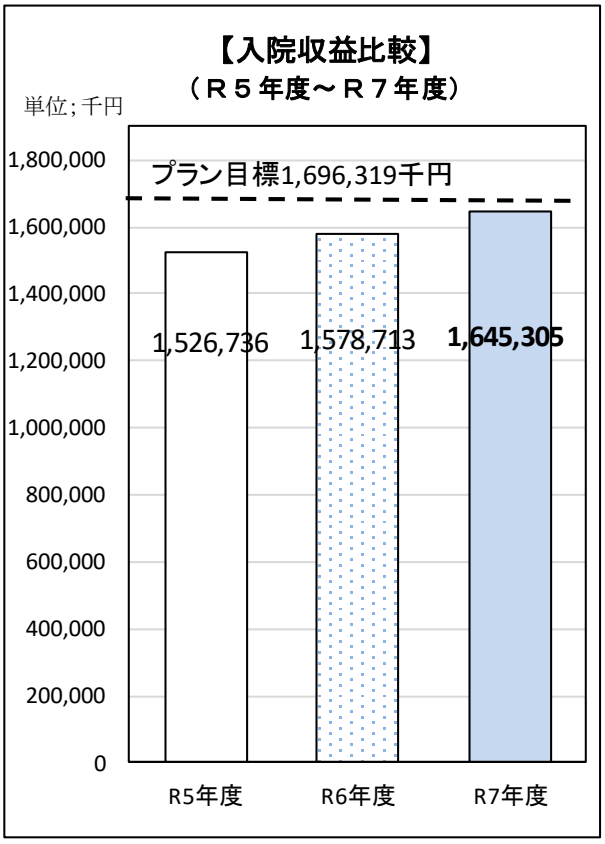
入院と外来収益の合計では、プラン目標より約６，９６７万円下回る約２３億２，５３５万円、達成率９７．１％となりましたが、前年差では約２，７９６万円の増となりました。

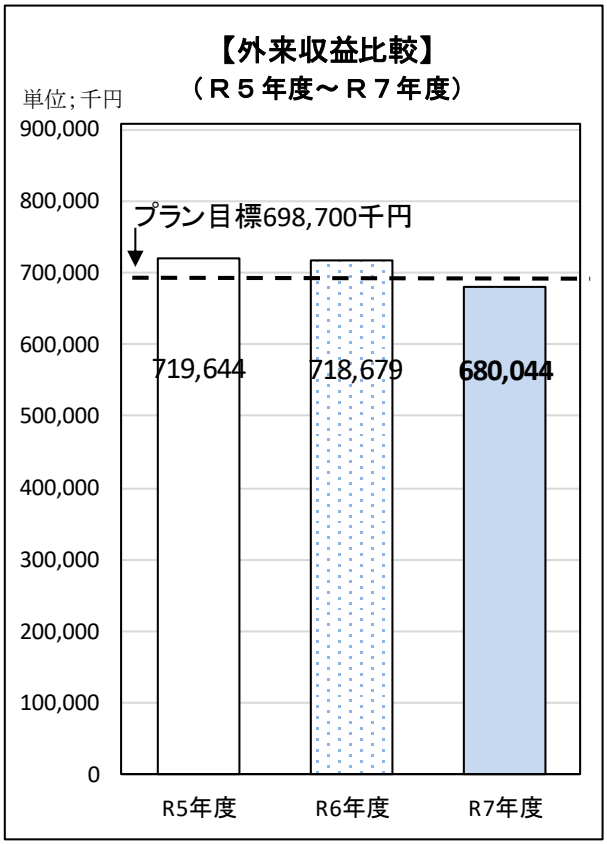
今年度は、入院・外来を問わず迅速かつ積極的な紹介患者の受入れを推進し、医療機関・福祉施設・介護サービス事業所との「地域包括ケア推進意見交換会」を開催し、連携強化に取り組んでまいりました。その結果、紹介患者数は、プラン目標を７０２件上回る２，４０２件、達成率１４１．３％となり、前年差では３１４件の増となりました。

加えて、従来の各部署の管理職等で構成する「経営健全化会議」と令和６年度からの取り組みである、全ての常勤医師で構成する「病院経営会議」を毎月開催し、入院・外来の患者数や収益状況などを共有し、課題を認識し早期改善を図っています。

これらの取り組みの継続が、入院外来収益の安定化と増収につながっています。

【入院収益・外来収益の目標達成状況】





【入院】　（単位：千円）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
5年度実績	126,093	130,807	121,966	134,579	131,282	131,796	130,631	115,064	125,570	122,285	125,413	131,250	1,526,736
6年度実績	108,430	111,277	113,436	149,394	144,433	124,467	127,219	135,922	146,298	142,539	132,402	142,896	1,578,713
7年度目標	139,423	144,071	139,423	144,071	144,071	139,423	144,071	139,423	144,071	144,071	130,130	144,071	1,696,319
7年度実績	**134,643**	**127,790**	**128,382**	**148,094**	**140,482**	**135,110**	**139,937**	**127,101**	**144,429**	**147,761**	**133,561**	**138,015**	**1,645,305**
目標差	△ 4,780	△ 16,281	△ 11,041	4,023	△ 3,589	△ 4,313	△ 4,134	△ 12,322	358	3,690	3,431	△ 6,056	△ 51,014
達成率（%）	96.6	88.7	92.1	102.8	97.5	96.9	97.1	91.2	100.2	102.6	102.6	95.8	97.0
前年差	26,213	16,513	14,946	△ 1,300	△ 3,951	10,643	12,718	△ 8,821	△ 1,869	5,222	1,159	△ 4,881	66,592

（入院診療日数／366 日…令和 5 年度、365 日…令和 6 年度、365 日…令和 7 年度）

【外来】　（単位：千円）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
5年度実績	53,535	57,150	61,220	63,547	67,488	61,045	61,191	60,582	63,077	58,697	58,241	53,871	719,644
6年度実績	59,524	55,665	57,886	59,658	59,313	55,952	64,912	65,115	62,785	61,095	60,955	55,819	718,679
7年度目標	60,631	57,744	60,631	63,518	57,744	57,744	63,518	51,969	57,744	54,857	51,969	60,631	698,700
7年度実績	**58,946**	**60,278**	**60,206**	**57,669**	**53,818**	**53,061**	**61,121**	**53,677**	**57,173**	**59,087**	**48,748**	**56,260**	**680,044**
目標差	△ 1,685	2,534	△ 425	△ 5,849	△ 3,926	△ 4,683	△ 2,397	1,708	△ 571	4,230	△ 3,221	△ 4,371	△ 18,656
達成率（%）	97.2	104.4	99.3	90.8	93.2	91.9	96.2	103.3	99.0	107.7	93.8	92.8	97.3
前年差	△ 578	4,613	2,320	△ 1,989	△ 5,495	△ 2,891	△ 3,791	△ 11,438	△ 5,612	△ 2,008	△ 12,207	441	△ 38,635

（外来診療日数／243 日…令和 5 年度、243 日…令和 6 年度、242 日…令和 7 年度）

【入院・外来合計】　（単位：千円）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
5年度実績	179,628	187,957	183,186	198,126	198,770	192,841	191,822	175,646	188,647	180,982	183,654	185,121	2,246,380
6年度実績	167,954	166,942	171,322	209,052	203,746	180,419	192,131	201,037	209,083	203,634	193,357	198,715	2,297,392
7年度目標	200,054	201,815	200,054	207,589	201,815	197,167	207,589	191,392	201,815	198,928	182,099	204,702	2,395,019
7年度実績	**193,589**	**188,068**	**188,588**	**205,763**	**194,300**	**188,171**	**201,058**	**180,778**	**201,602**	**206,848**	**182,309**	**194,275**	**2,325,349**
目標差	△ 6,465	△ 13,747	△ 11,466	△ 1,826	△ 7,515	△ 8,996	△ 6,531	△ 10,614	△ 213	7,920	210	△ 10,427	△ 69,670
達成率（%）	96.8	93.2	94.3	99.1	96.3	95.4	96.9	94.5	99.9	104.0	100.1	94.9	97.1
前年差	25,635	21,126	17,266	△ 3,289	△ 9,446	7,752	8,927	△ 20,259	△ 7,481	3,214	△ 11,048	△ 4,440	27,957

【参考：診療科別患者数・診療単価・収益の院内目標の達成状況】

【入院】

4/1～3/31(診療日数365日)		一日当たり患者数比較(単位:人)			診療単価比較(単位:円)			収益比較(単位:千円)			
		目標	実績	差	目標	実績	差	目標	実績	差	達成率(%)
3F包括病棟	内科	36.9	26.6	△ 10.3	32,800	34,306	1,506	441,766	332,938	△ 108,828	75.4
	外科	4.9	12.5	7.6	32,800	37,051	4,251	58,663	169,803	111,140	289.5
	整形外科	4.0	6.4	2.4	32,800	34,709	1,909	47,888	81,044	33,156	169.2
	皮膚科	1.0	0.5	△ 0.5	42,000	54,985	12,985	15,330	8,908	△ 6,422	58.1
	小計	46.8	46.0	△ 0.8	32,997	35,311	2,314	563,647	592,693	29,046	105.2
4F一般病棟	内科	22.0	23.8	1.8	33,150	36,934	3,784	266,195	321,107	54,912	120.6
	外科	25.0	14.8	△ 10.2	45,000	43,336	△ 1,664	410,625	233,622	△ 177,003	56.9
	整形外科	2.0	2.1	0.1	31,000	33,435	2,435	22,630	25,410	2,780	112.3
	皮膚科	—	0.0	0.0	—	312,870	—	—	1,877	1,877	—
	小計	49.0	40.7	△ 8.3	39,108	39,190	82	699,450	582,016	△ 117,434	83.2
5F包括病棟	内科	26.1	22.5	△ 3.6	34,300	35,792	1,492	326,759	293,744	△ 33,015	89.9
	外科	5.1	9.0	3.9	34,300	36,238	1,938	63,849	118,789	54,940	186.0
	整形外科	2.5	3.4	0.9	34,300	36,265	1,965	31,299	45,730	14,431	146.1
	皮膚科	—	0.0	0.0	—		—	—	791	791	—
	眼科	0.5	0.6	0.1	62,000	57,999	△ 4,001	11,315	11,542	227	102.0
	小計	34.2	35.5	1.3	34,705	36,311	1,606	433,222	470,596	37,374	108.6
診療科計	内科	85.0	72.9	△ 12.1	33,351	35,623	2,272	1,034,720	947,789	△ 86,931	91.6
	外科	35.0	36.3	1.3	41,732	39,406	△ 2,326	533,137	522,214	△ 10,923	98.0
	整形外科	8.5	11.9	3.4	32,817	34,937	2,120	101,817	152,184	50,367	149.5
	皮膚科	1.0	0.5	△ 0.5	42,000	63,258	21,258	15,330	11,576	△ 3,754	75.5
	眼科	0.5	0.6	0.1	62,000	57,999	△ 4,001	11,315	11,542	227	102.0
総計		130.0	122.2	△ 7.8	35,750	36,894	1,144	1,696,319	1,645,305	△ 51,014	97.0

【外来】

4/1～3/31(診療日数242日)		一日当たり患者数比較(単位:人)			診療単価比較(単位:円)			収益比較(単位:千円)			
		目標	実績	差	目標	実績	差	目標	実績	差	達成率(%)
常勤医師診療科	内科	140.0	106.2	△ 33.8	10,504	12,977	2,473	409,962	333,703	△ 76,259	81.4
	外科	30.0	25.1	△ 4.9	15,800	21,504	5,704	114,708	130,401	15,693	113.7
	整形外科	22.0	27.8	5.8	6,000	8,885	2,885	31,944	59,717	27,773	186.9
	皮膚科	16.0	14.3	△ 1.7	8,400	14,514	6,114	32,525	50,334	17,809	154.8
	小計	208.0	173.4	△ 34.6	10,630	13,681	3,051	589,139	574,155	△ 14,984	97.5
非常勤医師診療科	小児科	13.0	16.3	3.3	4,700	4,384	△ 316	14,786	17,322	2,536	117.2
	泌尿器科	9.0	7.4	△ 1.6	5,500	5,307	△ 193	11,979	9,532	△ 2,447	79.6
	耳鼻咽喉科	9.0	8.8	△ 0.2	6,200	6,483	283	13,504	13,822	318	102.4
	眼科	16.0	13.0	△ 3.0	6,000	6,090	90	23,232	19,136	△ 4,096	82.4
	婦人科	0.1	0.2	0.1	3,300	9,565	6,265	80	392	312	490.0
	リウマチ科	5.0	3.1	△ 1.9	10,000	16,264	6,264	12,100	12,247	147	101.2
	小計	52.1	48.8	△ 3.3	6,002	6,132	130	75,681	72,451	△ 3,230	95.7
在宅	訪問看護等							33,880	33,438	△ 442	98.7
総計		260.1	222.2	△ 37.9	11,100	12,644	1,544	698,700	680,044	△ 18,656	97.3

※訪問看護等は、訪問看護、訪問リハビリテーションを含む介護保険分野の総計です。

2．経営強化プラン数値目標の達成状況及び取組状況

（１）役割・機能の最適化と連携の強化

経営強化プランでは、地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・医療機能を①「救急搬送の積極的な受け入れと消化器系を中心とした急性期医療」、②「他医療機関からの転院患者や在宅療養患者を受け入れ、在宅復帰を支援する回復期医療」、③「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを支える在宅医療」としています。地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能を①「健康推進」、②「介護福祉支援」、③「離島への医療・介護支援」としています。

また、機能分化・連携強化では、高度な医療を支える仙台医療圏の病院や介護施設、地域包括支援センター等と連携をしながら、二市三町唯一の公立病院として、地域包括ケアシステムを支える医療を担うこととしています。

①医療機能や医療の質、連携強化等に係る数値目標の達成状況

			項　目	単位	R6年度	R7年度	目標	目標差	達成率(%)	前年差
医療機能に係るもの	急性期医療	1	救急搬送受入件数	件/年	1,069	937	1,000	△ 63	93.7	△ 132
		2	手術件数	件/年	448	347	450	△ 103	77.1	△ 101
		3	うち全身麻酔件数	件/年	139	99	120	△ 21	82.5	△ 40
		4	内視鏡検査件数	件/年	2,454	2,274	2,600	△ 326	87.5	△ 180
		5	内視鏡手術件数	件/年	184	162	240	△ 78	67.5	△ 22
		6	CT検査件数	件/年	3,581	3,465	3,000	465	115.5	△ 116
		7	MRI検査件数	件/年	1,450	1,616	1,200	416	134.7	166
	回復期医療	8	地域包括ケア病棟の新規入院患者の受入件数	件/年	982	874	900	△ 26	97.1	△ 108
		9	在宅復帰率	%	83.8	83.8	80.0	3.8	104.8	0.0
	在宅医療	10	訪問診療件数	件/年	1,832	1,916	1,560	356	122.8	84
		11	訪問看護件数	件/年	2,057	2,114	2,150	△ 36	98.3	57
		12	訪問リハ件数	件/年	2,387	2,291	2,200	91	104.1	△ 96
医療の質に係るもの		13	休日夜間救急患者受入件数	件/年	1,824	1,605	1,500	105	107.0	△ 219
		14	地域救急貢献率	%	19.8	17.0	20.0	△ 3.0	85.0	△ 2.8
健康推進に係るもの		15	人間ドック・健康診断件数	件/年	6,914	6,513	6,700	△ 187	97.2	△ 401
		16	脳ドック件数	件/年	266	235	200	35	117.5	△ 31
		17	二次検診受入件数	件/年	518	496	600	△ 104	82.7	△ 22
		18	予防接種件数	件/年	3,670	3,531	4,200	△ 669	84.1	△ 139

	項　目		単位	R6年度	R7年度	目標	目標差	達成率(%)	前年差
連携の強化等に係るもの	19	紹介患者数	件/年	2,088	2,402	1,700	702	141.3	314
	20	逆紹介患者数	件/年	2,264	2,764	1,700	1,064	162.6	500
	21	他院からの入院患者の受入件数	件/年	331	433	220	213	196.8	102
介護福祉支援に係るもの	22	介護施設等からの緊急入院患者の受入件数	件/年	179	185	190	△ 5	97.4	6
	23	レスパイト入院患者の受入件数	件/年	218	150	200	△ 50	75.0	△ 68

②目標達成に向けた具体的な取組

（ア）急性期医療に係る取組

項目	取組内容	新規実施
救急搬送受け入れ体制の強化	「病院経営会議」等での救急搬送状況の共有と平日日中の受け入れ強化(令和６年度～)	
	救急隊との症例検討会の開催(令和７年度１回・平成２２年度～)	
	救急隊との救急搬送事案の情報共有（令和７年度１２回・平成２２年度～)	
消化器系を中心とした手術の実施	入院診療による眼科白内障手術の開始(令和３年度～)	
	入院診療及び日帰りでの皮膚科手術の開始(令和３年度～)	
	内視鏡手術及び外科手術が可能な診療体制の継続	

（イ）回復期医療に係る取組

項目	取組内容	新規実施
地域包括ケア病床での積極的な患者受け入れ	一般病棟のうち１７床を地域包括ケア病床へ機能転換（令和７年度～)	◎
	病棟薬剤師による総合的な薬物療法の調整を通じたポリファーマシー解消の推進(令和７年度～)	◎
	転入院の問い合わせへの迅速な対応による受け入れまでの日数短縮(令和６年度～)	
	紹介入院患者の紹介元医療機関への返書発送の徹底(令和６年度～)	
	地域包括ケア病棟を中心とした、レスパイト入院の受け入れと送迎サービスの実施（令和７年度患者数１５０名・令和元年度～)	
	周辺医療機関への訪問(令和７年度２回・平成２８年度～)	
	介護福祉施設への訪問(令和７年度３回・平成２８年度～)	
在宅復帰支援の充実	多職種で構成する退院支援チームを編成し、退院支援充実に向けた取り組みの推進(令和６年度～)	
	看護師とリハビリスタッフによる退院前自宅訪問体制の強化と退院後の生活に直結したリハビリの提供(令和５年度～)	
	家族や介護者向け薬剤管理説明書の作成と配布(令和５年度～)	
	入退院支援加算の加算引き上げと入院直後からの退院支援担当者による面談や早期カンファレンスの実施による退院支援の充実(令和４年度～)	

（ウ）在宅医療に係る取組

項目	取組内容	新規実施
自宅、施設での療養生活支援	在宅医療を中心に担当する医師配置(令和６年度～)	
	在宅療養支援病院の施設基準取得および自宅での看取りへの対応(平成２５年度～)	
かかりつけ患者への在宅医療導入と支援	情報共有シート活用による訪問診療が必要になった外来通院患者への円滑な診療体制の切替(令和６年度～)	
	退院後に在宅医療を希望する患者への在宅部門の早期介入(令和６年度～)	
地域包括支援センター等との連携強化	地域包括支援センターへの訪問(令和７年度２回・令和６年度～)	
人生の最終段階における医療支援	塩竈市南部・東部地区地域包括支援センター主催研修会での訪問診療の取り組みとＡＣＰについての講話(令和７年度１回・令和７年度～)	◎
	終末期における意思表明書の導入と電子カルテを活用した患者本人の意思の共有(令和６年度～)	
	エンディングノートの活用方法のサポートの推進(令和６年度～)	
	塩竈市西部地区地域包括支援センター主催セミナーでのＡＣＰについての講話(令和６年度１回・令和６年度～)	
	患者本人の意思や価値観を尊重した医療やケアの提供体制の推進(平成３０年度～)	

（エ）医療の質に係る取組

項目	取組内容	新規実施
地域の救急体制への寄与	「病院経営会議」等での救急搬送状況の共有と日中の受け入れ強化の周知(令和６年度～)【再掲】	
	塩釜地区の救急症例に関する救急隊の搬送状況の評価(平成２２年度～)	
	救急隊との症例検討会の開催(令和７年度１回・平成２２年度～) 【再掲】	
職員の資質向上	退院支援チーム主催の多職種による退院支援の院内研究発表会の実施（令和７年度１回・令和７年度～)	◎
	看護師と看護補助者の協働による看護チーム研修会の実施(令和７年度１回・令和７年度～)	◎
	看護師の「クリニカルラダー評価表」の見直しと認定評価の実施(令和７年度～)	◎
	看護補助者へのクリニカルラダーの導入と評価の実施(令和７年度～)	◎
	看護部からの「看護部だより」による情報発信(令和７年度～)	◎
	多職種で構成する身体的拘束最小化チームを編成し、身体的拘束最小化に向けた取り組みの推進と身体的拘束の指針見直し（令和６年度～)	
	職員の資格等取得費助成金制度の制定(令和５年度～)	
	薬品についての「ドラッグインフォメーション」を医療情報システムを活用して配布(令和４年度～)	
	認定看護師の配置(令和７年度感染管理１名・摂食嚥下１名・褥瘡管理１名計３名在職)	
	特定行為(点滴・栄養)看護師の配置(令和７年度１名在職)	
	認定看護師資格取得や特定行為受講支援(令和３年度～)	

項目	取組内容	新規実施
職員の資質向上	看護師の新クリニカルラダーとマネジメントラダーの導入(平成３０年度～)	
	看護師や看護補助者を対象とした院内研修の充実とe-learningの導入(平成３０年度～)	
	看護研究の推進と研究発表の場の拡大(平成３０年度～)	
	医事課から診療報酬関係の情報を発信する「医事通信」の発刊（令和７年度１２回・平成２８年度～)	

（オ）その他の取組

項目	取組内容	新規実施
健康推進に係る取組	個別接種移行後のコロナワクチン接種の継続対応(令和６年度～)	
	人間ドック等へのＡＩ放射線画像分析装置の導入(令和６年度～)	
	帯状疱疹ワクチンの接種開始(令和５年度～)	
	人間ドックや健康診断の１日当たりの受け入れ枠の柔軟化(令和元年度～)	
	栄養科広報誌「栄養だより」の配布（令和７年度６回・平成２２年度～)	
介護福祉支援に係る取組	地域包括支援センターへの訪問(令和７年度２回・令和６年度～)【再掲】	
	地域包括ケア病棟を中心とした、レスパイト入院の受け入れと送迎サービスの実施（令和７年度患者数１５０名・令和元年度～)	
	周辺医療機関や介護施設等を対象とした「地域医療連携の集い」の開催（令和７年度１４１名・平成２８年度～）【再掲】	
	介護福祉施設への訪問(令和７年度３回・平成２８年度～)【再掲】	
	介護福祉施設との連携体制の構築（令和７年度協力医療機関の協定締結３６施設)	
離島支援	浦戸諸島への訪問リハビリ対応(平成２７年度～)	
	浦戸診療所への医師派遣(平成２４年度～)	
機能分化	一般病棟のうち１７床を地域包括ケア病床へ機能転換（令和７年度～）【再掲】	◎
	療養病棟を廃止し、急性期病棟を２病棟から１病棟に集約。地域包括ケア病棟を１病棟（４２床）から２病棟（９０床）へ拡大（令和元年１０月～)	
連携強化	医療機関・福祉施設・介護サービス事業所との連携強化を目的とした「地域包括ケア推進意見交換会」の開催（令和７年度３回・令和７年度～)	◎
	地域包括支援センターへの訪問(令和７年度２回・令和６年度～)【再掲】	
	紹介入院患者の紹介元医療機関への返書発送の徹底(令和６年度～)【再掲】	
	地域医療連携センターを設置し、入院から退院まで一貫した医療サービスの提供(令和３年度～)	
	周辺医療機関への訪問(令和７年度２回・平成２８年度～)【再掲】	

項目	取組内容	新規実施
連携強化	介護福祉施設への訪問(令和７年度３回・平成２８年度～)【再掲】	
	周辺医療機関や介護施設等を対象とした「地域医療連携の集い」の開催（令和７年度１４１名・平成２８年度～）【再掲】	
積極的な情報発信	市民講座「公開セミナー」でのＡＣＰを題材とした劇の開催(令和７年度～)	◎
	病院創立８０周年に併せた院外広報誌「Kamado」の特別号の発刊と関係医療機関・介護福祉機関への配布（令和７年度）	◎
	外来ロビーへのデジタルサイネージの導入と情報発信(令和６年度～)	
	院外広報誌「Kamado」の作成及び関係機関・医療機関・介護福祉機関への配布（令和７年度４回・令和５年度～）	
	在宅医療・在宅支援リーフレットの作成及び関係機関・医療機関・介護福祉機関への配布(令和３年度～)	
	ＬＩＮＥやフェイスブック等のSNSを活用した情報発信(令和２年度～)	
	ホームページのスマートフォン対応とリニューアルと視覚障がい者用読み上げシステムの導入(平成２８年度～)	
	市民講座「公開セミナー」の開催（令和７年度１回・平成２１年～）	

【役割・機能の最適化と連携の強化に係る数値目標、取り組みへの評価】

（１）医療機能に係る急性期医療の取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
1. 救急搬送患者受入件数 1,000 件/年	937 件/年 △63 件/年 93.7%	B	・目標に達しなかった要因を精査されてはどうか。要請数が少なかったのか、不応需が多かったのか、それがどのような理由だったのか等。 ・今後は、新たな地域医療構想の方向性なども踏まえ、救急受入の役割分担を検討していくことになると思われる。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアせず、前年度からも若干のダウン。当院の機能区分からも、高齢者救急の件数をもっと増やすべきである。 ・救急搬送患者の受入体制を維持するとともに、院内連携を強化し、可能な限り受入件数の確保を図られたい。 ・目標を下回るが、概ね評価できる水準である。公立病院として、地域の期待に応える救急応需率と入院受入れの向上を期待する。 ・救急隊のファーストコールが他院になったため受入件数の減はやむを得ない、施設・かかりつけ患者の日中の受入を強化する。
2. 手術件数 450 件/年	347 件/年 △103 件/年 77.1%	C	・優秀な外科のスタッフがいるので、もう少し手術件数が伸びても良いのではないか。 ・目標値はクリアせず、前年度からもダウン。当院に期待される外科系・急性期患者の比率が減少していることの証左である。 ・手術件数が目標を下回った要因を診療科別・手術内容別に分析し、手術実施体制の見直しや院内連携を進め、手術件数の増加を図る必要がある。 ・目標及び直近 3 年平均を大きく下回っている。内視鏡手術件数も大きく減少しており、急性期から回復期へ機能転換を進めていることを考慮しても懸念される。 ・集約化の影響であり外科の手術件数の増加は期待できない。眼科・皮膚科手術を維持する。

3. 2のうち全身麻酔件数 120 件/年	99 件/年 △21 件/年 82.5%	B	・目標値はクリアせず、前年度からもダウン。当院に期待される外科系・急性期患者の比率が減少していることの証左である。 ・全身麻酔を必要とする手術の受入状況や未実施となった要因を分析し、体制を踏まえた適切な症例の受入れを促進されたい。 ・目標及び直近 3 年平均を大きく下回っている。内視鏡手術件数も大きく減少しており、急性期から回復期へ機能転換を進めていることを考慮しても懸念される。 ・費用対効果を考え、外科の夜間及び休日呼び出しの臨時手術を中止した。大学医師のサポートによる消化管手術を維持するとともに、日中の臨時手術は継続する。
4. 内視鏡検査件数 2,600 件/年	2,274 件/年 △326 件/年 87.5%	B	・鎮静の不要な経鼻内視鏡の導入を中長期的に計画してはいかがか。 ・令和8年度から胃内視鏡検診が始まったため、検査件数の増加が予想される。 ・鎮静剤の使用も考慮して件数を増やされたい。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアせず、前年度からも若干のダウン。クリニックや介護施設向けの対外営業、市民向けのPR活動等を強化してはどうか。 ・検査需要や診療科からの紹介状況等を分析し、地域の医療機関との連携を強化することで、検査件数の確保・増加を図られたい。 ・診療単価の高い内視鏡検査が4年連続減少傾向にあり懸念される。 ・麻酔下の検査に対応できていない。住民健診に胃部内視鏡検査が令和8年度から加わり検査増に期待したい。
5. 内視鏡手術件数 240 件/年	162 件/年 △78 件/年 67.5%	C	・目標値はクリアせず、前年度からもダウン。当院に期待される急性期患者の比率が減少していることの証左である。 ・内視鏡手術件数が低調となった要因を分析し、対象となる患者の受入れや診療科間の連携を強化するとともに、実施体制の充実を検討されたい。 ・3年連続の減少傾向にあり、手術件数ととも

			に、目標を大きく下回り懸念される。 ・ポリペクトミーはクリニックで対応しているものと思われる。
6. CT検査件数 3,000 件/年	3,465 件/年 465 件/年 115.5%	S	・重要項目と思われる。目標値はクリアしているが、前年度からはダウンしている。 ・目標を上回る実績となっていることから、引き続き検査体制を維持するとともに、地域医療機関からの紹介等による検査受入れを継続されたい。 ・目標を大きく上回っており評価できる。検査効率の向上による、患者負担の軽減や検査遅延の防止など、さらなる取組に期待する。 ・東北大放射線科医による読影レポートが開業医に好評なので、アピールを広げていく。
7. MRI検査件数 1,200 件/年	1,616 件/年 416 件/年 134.7%	S	・重要項目と思われる。目標値はクリア、前年度からもアップしている。 ・目標を大きく上回る実績となっている。引き続き検査体制を維持し、地域医療機関との連携による検査需要への対応を進められたい。 ・目標を大きく上回り評価できる。検査効率の向上による、患者負担の軽減や検査遅延の防止など、さらなる取組に期待する。 ・東北大放射線科医による読影レポートが開業医に好評なので、アピールを広げていく。

（２）医療機能に係る回復期医療の取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
8. 地域包括ケア病棟新規入院患者受入件数 900 件/年	874 件/年 △26 件/年 97.1%	A	・この地域では地域包括ケアのニーズが高いと思うので、積極的に他院との連携を強化されたい。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアせず、前年度からも若干のダウン。ポスト・アキュート、サブ・アキュートの患者獲得に向けた対外営業の強化が必要である。 ・目標にほぼ到達している。今後も急性期からの受入れや在宅療養中の患者の入院受入れについて、院内各部署及び地域の医療機関・

			介護関係機関との連携を強化し、安定した患者受入れの確保を図られたい。 ・概ね目標を達成しており評価できる。急性期病床から地域包括ケア病床への機能転換を踏まえ、更なる受け入れ拡大に期待する。 ・高齢者救急、施設との更なる連携が必要である。
9. 在宅復帰率 80.0%	83.8% 3.8 ポイント 104.8%	A	・重要項目と思われる。目標値はクリア、前年度と同数である。 ・目標を上回っている。引き続き、入院早期から退院後の生活を見据えた支援を行うとともに、ケアマネジャーや在宅医療・介護関係機関等との連携を強化し、在宅復帰の促進を図られたい。 ・目標を上回っており評価できる。引き続き、診療報酬基準を上回るよう期待する。

（３）医療機能に係る在宅医療の取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
10. 訪問診療件数 1,560 件/年	1,916 件/年 356 件/年 122.8%	S	・継続して件数の増加を図られたい。 ・今後も在宅医療の需要増加が見込まれるので、更なる取組に期待する。 ・重要項目と思われる。目標値はクリア、前年度からもアップしている。 ・目標を大きく上回った。今後も在宅療養を支える医療機能として、地域の医療・介護関係機関との連携を継続し、安定した訪問診療体制の維持・充実を図られたい。 ・目標を大きく上回り評価できる。 ・専属医師を配置した。
11. 訪問看護件数 2,150 件/年	2,114 件/年 △36 件/年 98.3%	A	・他院からの訪問看護の依頼が増えれば、さらに件数が増えるのではないか。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアせずとも、前年度からはアップしている。 ・目標にほぼ到達している。今後も利用者の在宅生活を支えるため、訪問看護のニーズを適切に把握するとともに、医療機関やケアマネジャー等との連携を強化し、利用者の確保と安定したサービス提供に努められた

			い。 ・概ね目標を達成しているが、PRの強化など、更なる取組に期待する。 ・訪問診療を強化したことにより相対的に減少しており、対象者を増やす工夫を検討する。
12. 訪問リハ件数 2,200 件/年	2,291 件/年 91 件/年 104.1%	A	・重要項目と思われる。目標値はクリアし、前年度からは若干のダウンしている。 ・目標を上回っており評価できる。今後も在宅生活の継続や生活機能の維持・向上を支援するため、医療・介護関係機関との連携を図りながら、安定した訪問リハビリテーションの提供に努められたい。 ・目標を上回っており評価できる。 ・地域包括ケア病棟でのリハビリニーズが増加する中で、職員を補充し地域のニーズに対応している。

（４）医療の質に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
13. 休日夜間救急患者受入件数 1,500 件/年	1,605 件/年 105 件/年 107.0%	A	・重要項目と思われる。目標値はクリアしているが、前年度からはダウンしている。 ・目標を上回っている。今後も休日・夜間における救急患者の受入体制を維持するとともに、関係機関との連携を図り、地域の救急医療を支える役割を継続されたい。 ・目標を上回っており評価できる。公立病院として、地域の期待に応える急患の受入れを期待する。
14. 地域救急貢献率 20.0%	17.0% △3.0 ポイント 85.0%	B	・重要項目と思われる。目標値はクリアせず、前年度からもダウンしている。 ・目標を下回っている。地域における救急医療の役割を踏まえ、受入れ状況や未受入れとなった事例等を分析し、救急患者の受入体制や院内連携の強化を図ることで、地域救急へのさらなる貢献を目指されたい。 ・近年、低下傾向にあり懸念される。地域救急貢献率の向上とともに、その後の入院に結びつける取組にも期待する。

			・他院の救急体制の強化による影響でありやむを得ない。

（５）健康推進に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
15.人間ドック・健康診断件数 6,700 件/年	6,513 件/年 △187 件/年 97.2%	B	・目標値はクリアせず、前年度からもダウンしている。 ・目標にほぼ到達している。今後も健診・人間ドックの利用促進に向け、受診者のニーズを踏まえたサービスの充実や広報、地域・企業等との連携を図り、受診者数の確保に努められたい。 ・入院に比べ少ない投入医療資源で収益性は高いため、件数確保に向け事業所や国保加入者への更なるPR強化に期待する。 ・地元企業への積極的な受診勧奨を行う。
16. 脳ドック 200 件/年	235 件/年 35 件/年 117.5%	A	・目標値はクリアしているが、前年度からはダウンしている。 ・目標を大きく上回っている。今後も脳疾患の早期発見・予防に向け、脳ドックの必要性や有用性について周知を図り、受診者の確保と安定した実施体制の維持に努められたい。 ・目標を大きく上回っており評価できる。
17. 二次検診受入件数 600 件/年	496 件/年 △104 件/年 82.7%	B	・目標値はクリアせず、前年度からもダウンしている。 ・目標を下回った。二次検診の受入状況や受診に至らなかった要因を分析するとともに、健診からの円滑な受診につながる体制を整え、受入件数の確保に努められたい。 ・目標はもとより、前年も下回り懸念される。今後の取組に期待する。 ・当院の健診からの取り込みを検討中である。
18. 予防接種件数 4,200 件/年	3,531 件/年 △669 件/年 84.1%	B	・目標値はクリアせず、前年度からもダウンしている。 ・目標を下回っている。接種状況や需要の動向を分析し、対象者への情報提供や受診勧奨、地域への周知を強化することで、接種

			機会の確保と利用促進を図られたい。 ・目標はもとより、前年も下回り懸念される。今後の取組に期待する。 ・インフルエンザワクチンに加えて、有料化された COVID-19 ワクチンの接種を高齢者・基礎疾患を有する患者に進めていく。

（６）連携の強化等に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
19. 紹介患者数 1,700 件/年	2,402 件/年 702 件/年 141.3%	S	・目標値を大きく上回っており、機能分化・連携や患者数増の点で評価できる。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアし、前年度からもアップしている。目標値が低すぎるのではないか。 ・目標を大きく上回っている。今後も地域の医療機関との連携を強化し、紹介患者を円滑に受け入れる体制を維持するとともに、地域における中核的な医療機関としての役割を果たされたい。 ・高い目標達成率であり大いに評価できる。引き続き、他院やクリニックとの連携を深め患者数の増加に期待する。 ・急性期病院との連携を更に強化しポストアキュート患者確保に努める。
20. 逆紹介患者数 1,700 件/年	2,764 件/年 1,064 件/年 162.6%	S	・目標を大きく上回っており、機能分化・連携の観点において評価できる。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアし、前年度からもアップしている。目標値が低すぎるのではないか。 ・目標を大きく上回っている。引き続き、患者の状態や療養環境に応じた適切な医療機関への逆紹介を推進し、地域の医療機関との機能分担と連携強化を図られたい。 ・高い目標達成率であり大いに評価できる。引き続き、他院やクリニックとの連携を深め患者数の増加に期待する。 ・東北医科薬科大学病院、坂総合病院との連携を強化していく。

21. 他院からの入院患者受入件数 220 件/年	433 件/年 213 件/年 196.8%	S	・目標を大きく上回っており、機能分化・連携の観点において評価できる。 ・重要項目と思われる。目標値はクリアし、前年度からもアップしている。目標値が低すぎるのではないか。 ・目標を大幅に上回っている。今後も地域の医療機関との連携を強化し、急性期・回復期等の患者を円滑に受け入れる体制を維持するとともに、地域における医療機関としての役割を果たされたい。 ・高い目標達成率であり大いに評価できる。引き続き、他院やクリニックとの連携を深め患者数の増加に期待する。 ・東北医科薬科大学病院、坂総合病院との連携を強化していく。

（７）介護福祉支援に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
22. 介護施設等からの緊急入院患者受入件数 190 件/年	185 件/年 △5 件/年 97.4%	A	・重要項目と思われる。目標値は若干クリアせずとも、前年度からはアップしている。患者獲得に向けた対外営業の強化が必要である。 ・目標にほぼ到達している。今後も介護施設等との連携を強化し、入所者の急変時等に円滑に受け入れられる体制を維持するとともに、地域の医療・介護連携の充実を図られたい。 ・件数増加に向け、介護施設等との連携強化及び応需率向上を期待する。 ・救急搬送及び緊急での対応は原則入院としているので徹底していく。
23. レスパイト入院患者受入件数 200 件/年	150 件/年 △50 件/年 75.0%	C	・市と共同で広報に努められたい。 ・目標値はクリアせず、前年度からもダウンしている。市民向けのPR活動の強化が必要である。 ・目標を下回っている。受入れ実績や利用に至らなかった要因を分析するとともに、ケアマネジャーや介護サービス事業所等への制度の周知を進め、在宅療養者及び家族の負担軽

			減につながるレスパイト入院の利用促進を図られたい。 ・目標及び前年度実績を大きく下回り懸念される。受け入れ増加に向け、病院の機能維持と安全管理の視点も考慮の上、公立病院としての役割の発揮に期待する。 ・神経難病患者の受入を中止したことによる減少。地域のニーズはあるため在宅患者等の利用を促していく。

※目標達成度評価
Ｓ＝十分評価できる　Ａ＝評価できる　Ｂ＝普通である　Ｃ＝やや評価できない　Ｄ＝評価できない

（２）医師・看護師等の確保と働き方改革

経営強化プランでは、医師・看護師等の確保の取組として、①「東北大学病院、東北医科薬科大学病院からの診療応援医師の協力継続と同大学卒業医師の派遣要請」、②「求職者への PR 強化」、③「働きやすい職場環境の整備」、④「初期研修医等の受け入れを通じた若手医師確保」としています。

また、医師の働き方改革への対応が求められています。

①医師・看護師等の確保に係る取組

項目	取組内容	新規実施
医師の確保	内科（消化器内科）、内科（地域総合診療専門医）、外科（訪問診療担当医）、整形外科の常勤医の招聘（令和６年度）	
	定年退職医師の会計年度任用職員待遇での雇用継続(令和６年度)	
	大学医局への定期的な訪問	
	民間の医師紹介会社の活用	
看護師等の確保	宮城県看護職員採用支援事業を活用した就職ガイダンス等の出展ブースの備品やＰＲ動画の作成(令和６年度)	
	看護師、看護補助者向けのワークライフバランス向上のための職場づくりアンケート実施(令和５年度～)	
	看護師等の休憩時間の明確化や働き続けられる職場づくりの推進(令和５年度～)	
	合同就職説明会へのブース出展や個別職場見学の実施(令和４年度～)	
	看護職員等処遇改善評価料の施設基準取得(令和４年度～)	
	インターネット就職募集サイトでの看護師募集や就職ガイダンス等への出展と看護師募集パンフレット作成(令和４年度～)	

項目	取組内容	新規実施
看護師等の確保	男性職員の育児休業の取得（令和７年度取得者３名・令和４年度～）	
	勤怠システム導入による時間外勤務と休暇取得状況の把握と環境改善の促進(令和４年度～)	
	育児中の部分休業の取得（令和７年度取得者３名・令和２年度～）	

②初期研修医等の受け入れ等を通じた若手医師の確保

項目	取組内容	新規実施
若手医師の確保	臨床研修医受け入れを２病院に拡大(令和７年度１４名・令和３年度～)	

③医師の働き方改革への対応

常勤医師の時間外勤務の状況は前年度同様 A 水準を維持しています。また、宿日直時間の変更を労働基準監督署の許可を得て、宿日直時間を 17：30～8：30 に定めており、医師派遣元の医療機関が派遣しやすい環境を維持しています。

（３）経営形態の見直し

当院は平成２２年４月に「地方公営企業法全部適用」に移行し、令和７年度も経営形態を継続しています。

（４）新興感染症の拡大時等に備えた平時からの取組

経営強化プランでは、新興感染症の拡大時等に備えた平時からの取り組みが求められています。その具体的な取組実績としては以下のとおりです。

項目	取組内容	新規実施
新興感染症拡大時等に備えた平時からの取組	感染管理認定看護師を中心とした多職種協働の手指衛生推進チームによる、平時からの感染対策啓発活動の推進(令和７年度～)	◎
	感染症に係る医療措置協定を締結し第一種、第二種協定指定医療機関の指定を受け、感染症患者の受入れ病床（３床）の確保と発熱患者の受け入れ体制の整備（令和６年度～）	
	感染拡大時を想定した感染症受入れ病床と一般病床の動線を区切る可動式の間仕切りの設置(令和６年度)	
	感染対策向上加算の引き上げ(令和６年度～)	
	新興感染症に係る多項目の検査が可能な遺伝子解析装置の導入(令和６年度～)	
	感染管理システムの導入（令和６年度～）	
	感染管理認定看護師の配置（令和５年度～）	
	認定看護師を中心とした平時からの感染対策の徹底(令和５年度～)	
	感染症受け入れ病床（３床）の設置(令和５年度)	
	新型コロナウイルス感染症受入医療機関の指定(令和５年度)	

（５）施設・設備の最適化

経営強化プランでは、持続可能な医療体制の確保のため、施設・設備の最適化に取り組むこととしています。その具体的な取組としては以下のとおりです。

①施設整備の状況

項目	取組内容	新規実施
施設整備の状況	入院患者の療養環境整備のための病院改修工事設計業務委託の実施（令和７年度）	◎
	病棟の屋上防水改修工事(令和７年度)	◎
	駐車場フェンスの改修(令和６～７年度)	◎
	入院患者用Wi－Fiの設置(令和７年度)	◎
	外来棟の空調設備更新(令和６～７年度)	◎
	入院患者の療養環境整備のための病院改修工事設計業務委託の契約（令和６年度）	
	外来総合待合室や小児科周辺のリニューアルと授乳室の新設(令和６年度)	
	感染拡大時を想定した感染症受入れ病床と一般病床の動線を区切る可動式の間仕切りの設置(令和６年度)【再掲】	

②デジタル化への対応

項目	取組内容	新規実施
デジタル化の推進	発熱患者や訪問診療用のマイナ保険証確認モバイル端末の導入(令和７年度～)	◎
	人間ドック等へのＡＩ放射線画像分析装置の導入(令和６年度～)【再掲】	
	感染管理システムの導入(令和６年度～)【再掲】	
	電子処方せんシステムの導入と運用開始(令和５年度～)	
	顔認証付きマイナ保険証読み取りカードリーダーの増設（令和７年度マイナ保険証利用率７４％・令和５年度～）	
	マイナ保険証を用いたオンライン資格確認システムの導入(令和３年度～)	
	電子カルテ導入による紙伝票の廃止と医療プラットフォーム構築のためのカルテの標準化への対応(令和３年度～)	
	医療情報システム整備更新に伴う、検査等部門システムとの連携による各種検査結果の共有(令和３年度～)	
	医療情報システム整備更新に伴う、在宅医療スタッフと院内のリアルタイム患者情報共有(令和３年度～)	
	医療情報システム整備更新に伴う、当院で実施した人間ドック等の健診結果の共有(令和３年度～)	
	ＭＭＷＩＮの医療情報提供項目の拡大(令和３年度～)	
サイバー攻撃への対応	電子カルテや診療情報のオフラインバックアップと世代管理の実施(令和７年度)	◎
	宮城県の医療機関におけるサイバーセキュリティ確保事業を活用した医療情報システムの脆弱性とバックアップ体制の調査実施(令和６年度)	
	サイバー攻撃や大規模災害等での医療情報システム使用不可環境での診療継続のマニュアル整備(令和５年度～)	
	入職時の研修等での医療情報システムのセキュリティポリシー等の周知(令和４年度～)	
	サイバー攻撃発生時の復旧までのフローの整備(令和３年度～)	
	データセンターを活用した診療情報の遠隔地バックアップの導入(令和３年度～)	

（６）経営の効率化等

経営強化プランでは、経営努力として具体的な数値目標を設定し、増患対策並びに経費削減に向けて積極的に取り組むこととしています。そして、検証する指標として、「経営の効率化に係る各種数値目標」を設定しています。

①経営指標に係る数値目標の達成状況

項目				単位	R6年度	R7年度	目標	目標差	達成率(%)	前年差
収益確保に係るもの	1	入院	病床利用率	%	70.7	75.9	80.7	△ 4.8	94.1	5.2
	2		1日当り患者数	人/日	113.8	122.2	130.0	△ 7.8	94.0	8.4
	3		患者1人1日当たり診療収益	円	37,996	36,894	35,750	1,144	103.2	△ 1,102
	4	外来	1日当り患者数	人/日	230.7	222.2	260.1	△ 37.9	85.4	△ 8.5
	5		患者1人1日当たり診療収益	円	12,820	12,644	11,100	1,544	113.9	△ 176
経費削減に係るもの	6		職員給与費対修正医業収益比率(会計年度任用職員を除く)	%	60.7	60.4	57.1	3.3	94.5	△ 0.3
			職員給与費対修正医業収益比率(会計年度任用職員を含む)	%	68.1	68.5	64.0	4.5	93.4	0.4
	7		材料費対修正医業収益比率	%	16.5	14.9	14.5	0.4	97.3	△ 1.6
	8		薬品費対修正医業収益比率	%	11.5	10.0	9.4	0.6	94.0	△ 1.5
	9		委託費対修正医業収益比率	%	12.9	14.0	12.7	1.3	90.7	1.1
	10		後発医薬品の使用割合	%	95.0	96.6	94.5	2.1	102.2	1.6
経営の安定性	11		常勤医師数	人	15	14	15	△ 1.0	93.3	△ 1.0

②経常収支比率及び修正医業収支比率に係る数値目標の達成状況

項目		単位	R6年度	R7年度	目標	目標差	達成率(%)	前年差
1	経常収支比率	%	95.5	97.7	101.1	△ 3.4	96.6	2.2
2	医業収支比率	%	86.7	86.6	91.9	△ 5.3	94.2	△ 0.1
3	修正医業収支比率	%	80.2	80.4	85.3	△ 4.9	94.3	0.2

③目標達成に向けた具体的な取組

収入の増加・確保に係る取組

項目	取組内容	新規実施
病床利用率の維持・向上	「病院経営会議」等での救急搬送状況の共有と平日日中の受け入れ強化(令和６年度～）【再掲】	
	転入院の問い合わせへの迅速な対応による受け入れまでの日数短縮(令和６年度～)【再掲】	
	地域包括ケア病棟を中心とした、レスパイト入院の受け入れと送迎サービスの実施（令和７年度患者数１５０名・令和元年度～）【再掲】	
	「経営健全化会議」等での健全化への取り組み推進（令和７年度１２回開催・平成２０年度～）【再掲】	

項目	取組内容	新規実施
外来患者数の維持・向上	大学等応援医師による循環器内科や糖尿病内科、総合診療室の診療体制拡充（令和６年度～）	
	定年退職医師の会計年度任用職員待遇での雇用継続による整形外科の診療体制強化(令和６年度～)【再掲】	
	外来総合待合室や小児科周辺のリニューアルと授乳室の新設(令和６年度)【再掲】	
	「経営健全化会議」等での健全化への取り組み推進（令和７年度１２回開催・平成２０年度～）【再掲】	
機器の稼働率向上	ＡＩによる撮影補助機能を有したＣＴ・ＭＲＩの機器更新による検査時間の短縮と検査稼働率の向上（令和５年度～）	
	身体に触れる検査での同性技師による対応に努め、受診者に配慮した環境の整備(令和４年度～)	
	ＣＴ・ＭＲＩ等の空き状況の発信や緊急検査依頼への柔軟な対応(令和３年度～)	
	脳ドックのWeb予約の開始(令和元年度～)	
患者サービス向上	入院患者用Wi－Fiの設置(令和７年度～)【再掲】	◎
	連帯保証人代行サービス導入による入院時の連帯保証人の確保にかかる負担軽減(令和７年度～)	◎
	患者満足度調査のＷｅｂ回答の開始(令和６年度～)	
	ＣＴ・ＭＲＩ等の更新に伴う、放射線低線量化による患者負担の軽減（令和５年度～）	
	クレジット支払の導入(令和４年度～)	
	在宅サービス利用者を対象とした患者満足度調査の実施（令和７年度回答数４８名・令和２年度～）	
	外来患者を対象とした患者満足度調査の実施（令和７年度回答数１８２名・平成２９年度～）	
	職員による外来混雑時の駐車場誘導の実施(平成２９年度～)	
その他の取組	一般病棟のうち１７床の機能転換と地域包括ケア入院管理料Ｉの取得(令和７年度～)	◎
	ベースアップ評価料の取得(令和６年度～)	
	医療ＤＸ推進体制整備加算・在宅医療ＤＸ情報活用加算・訪問看護医療ＤＸ情報活用加算の取得(令和６年度～)	
	ストーマ合併症加算の取得(令和６年度～)	
	急性期看護補助体制充実加算・看護補助体制充実加算の取得(令和６年度～)	
	感染対策向上加算の引き上げ(令和６年度～)【再掲】	

経費の削減・抑制に係る取組

項目	取組内容	新規実施
薬品費の抑制	病棟薬剤師配置及び配薬カート等購入に伴う在庫管理等の徹底(令和２年度～)	
	後発薬品の積極的な導入（令和７年度使用割合９６．６％・平成２６年度～）	
	医薬品ベンチマークを活用した薬品購入価格の引き下げ交渉の積極的な実施(平成２６年度～)	
	使用期限の近づいている薬品の早期周知による期限切れによる廃棄の防止(平成２６年度～)	

項目	取組内容	新規実施
診療材料費等の抑制	ＭＲＩ検査機器更新によるヘリウムガスの削減(令和５年度～)	
委託費の抑制	検体検査における、実施件数の少ない院内検査の外注化による検査測定装置の2台から1台への集約を通じた保守委託費の削減(令和７年度)	◎
未収金の発生防止及び適正な管理	連帯保証人代行サービスの導入(令和７年度～)	◎
	塩竈市立病院債権管理規程を定め、適正な債権管理を実施(令和５年度～)	
	クレジット支払の導入(令和４年度～)【再掲】	
施設の維持管理費用及び減価償却費の平準化	―	
人件費の最適化	勤怠システム導入による時間外勤務と休暇取得状況の把握と環境改善の促進(令和４年度～)【再掲】	
	勤務帯毎にユニフォーム色を区別することによる時間外勤務発生の抑制(令和３年度～)	
	職種を超えた柔軟な業務分担の見直しによる業務の効率化の推進(令和元年度～)	
	多職種連携による情報の共有化と重複業務の整理に伴う医療安全の向上と業務の効率化(令和元年度～)	
	病棟薬剤師配置の拡大による看護師の業務負担の軽減（令和元年度～）	
その他の取組	常勤医師で構成された「病院経営会議」の開催（令和７年度１２回開催・令和６年度～）【再掲】	
	「経営健全化会議」等での健全化への取り組み推進（令和７年度１２回開催・平成２０年度～）【再掲】	
	院内全体での節電等の推進(令和５年度～)	
	電子カルテの共有フォルダを活用した労務書類ダウンロード化による労務事務負担軽減(令和５年度～)	
	全職員を対象とした経営改善に向けた説明会の開催（令和７年度１回開催・平成３０年度～）	

※「―」は取組実績なし

【経営の効率化等に係る数値目標、取り組みへの評価】

（１）収益確保に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
1．病床利用率 80.7%	75.9% △4.8 ポイント 94.1%	A	・病床利用率85%を目指されたい。85%に届かない要因の検討を行われたい。 ・包括ケア病棟を増やして一般病床（急性期病床）を減らすのはいかがか。 ・今後は、新たな地域医療構想における医療機関機能などの方向性も踏まえ、地域のニーズに応じた病床のあり方を検討していくことになると思われる。 ・最重要項目と思われる。一般病棟・外科の病床利用率の低いことが原因。可及的速やかに、一般病棟全てを「地域包括ケア病棟」に転換すべき。地域包括ケア病棟3病棟化により、総病床数145床の場合、病床稼働率は 90%程度となる。 ・目標を下回ったものの、一定の病床利用率を確保している。今後は入院患者の動向や病床の稼働状況を分析し、入院患者の確保や病床の効率的な運用に努められたい。 ・年度の途中で急性期病床から地域包括ケア病床への機能転換を行ったが、更なる機能転換について検討されたい。 ・前年度から5．2%アップした。4～6月の入院減に対処できている。
2．入院1日当り患者数 130.0 人/日	122.2 人/日 △7.8 人/日 94.0%	A	・一般病棟全てを「地域包括ケア病棟」に転換し、地域包括ケア病棟3病棟化により、入院1日当り患者数は 130 人程度に増えることは確実。 ・今後は入院患者の確保に向け、地域の医療機関との連携を強化するとともに、病床機能に応じた患者受入れを推進し、安定した入院患者数の確保を図られたい。 ・年度の途中で急性期病床から地域包括ケア病床への機能転換を行ったが、更なる機能転換について検討されたい。 ・前年度から 8.4 人/日増加しており、4～6月の入院減に対処できている。

3. 入院患者 1 人 1 日当り診療収益 35,750 円	36,894 円 1,144 円 103.2%	A	・よく頑張っている。地域包括ケア病棟3病棟化となっても、入院診療単価はさほどダウンせず、36,000 円程度に落ち着くと思われる。 ・目標を上回っている。今後も患者の状態や病床機能に応じた適切な医療を提供するとともに、適正な診療報酬の確保に努め、安定した病院経営につなげられたい。 ・目標を上回っており評価できる。 ・急性期病床の入院期間の短縮が重要で速やかな地ケア病棟への転棟を進めていく。
4. 外来1日当り患者数 260.1 人/日	222.2 人/日 △37.9 人/日 85.4%	B	・重要項目と思われる。クリニックや介護施設向けの対外営業、市民向けのPR活動を強化してはどうか。 ・目標を下回った。外来患者数の減少要因や診療科別の動向を分析するとともに、地域の医療機関との連携や紹介患者の受入れ、健診等との連携を強化し、外来患者の確保に努められたい。 ・近年減少傾向にあり懸念される。引き続き、開業医や介護施設等との連携強化とともに、市民向けセミナーなどを通じたPR強化に期待する。 ・クリニックの多い地域であり、やむを得ないが、大学医師による専門外来をアピールしていく。
5. 外来患者 1 人 1 日当り診療収益 11,100 円	12,644 円 1,544 円 113.9%	A	・目標値はクリアしているが、前年度からは若干のダウンしている。目標値が低いのではないか。 ・目標を上回っている。今後も患者の状態や診療内容に応じた適切な医療を提供するとともに、適正な診療報酬の確保に努め、外来部門の収益確保を図られたい。 ・目標を上回り評価できる。 ・検査に基づく外来診療を進めていく。

（２）経費削減に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
6. 職員給与費対修正医業収益比率(会計年度任用職員を除く) 57.1%	60.4% 3.3 ポイント 94.5%	A	・目標値は若干クリアせずとも、前年度からは改善している。昨今の状況を鑑みると、よくやっている。 ・目標を 3.3 ポイント上回った。人件費の動向や職員配置を検証するとともに、業務の効率化や適正な人員配置を進め、収益とのバランスを考慮した人件費管理に努められたい。 ・公立病院のため人勧の影響等による給与費増加が負担となっている。処遇について、他の公立・公的病院との比較を通じた見直しを検討してはどうか。例えば、地ケア病棟について、3交替勤務から2交替勤務への変更を検討してはどうか。 ・前年度から0.3ポイント改善している。人員の適正化、医業収益増に努める。
6. 職員給与費対修正医業収益比率(会計年度任用職員を含む) 64.0%	68.5% 4.5 ポイント 93.4%	A	・目標値は若干クリアせず、前年度からも若干悪化している。昨今の状況を鑑みると、よくやっている。 ・目標を 4.5 ポイント上回った。職員配置や業務量等を踏まえて人件費の状況を分析し、適正な人員配置及び業務効率化を進めるとともに、収益の確保を図られたい。 ・公立病院のため人勧の影響等による給与費増加が負担となっている。処遇について、他の公立・公的病院との比較を通じた見直しを検討してはどうか。例えば、地ケア病棟について、3交替勤務から2交替勤務への変更を検討してはどうか。 ・前年度から0.4ポイント悪化している。人員の適正化、医業収益増に努める。
7. 材料費対修正医業収益比率 14.5%	14.9% 0.4 ポイント 97.3%	A	・目標値は若干クリアせずとも、前年度からは改善している。昨今の状況を鑑みると、よくやっている。 ・目標を 0.4 ポイント上回った。材料の使用状況や購入価格等を検証し、適正な在庫管理や調達方法の見直しを行うなど、医療の質

			を維持しながら材料費の適正化に努められたい。 ・地道な取組により概ね目標を達成しており評価できる。類似病院とのベンチマーク比較などを通じた取組に期待する。 ・前年度から 1.6 ポイント改善している。急性期機能の縮小によるものである。
8. 薬品費対修正医業収益比率 9.4%	10.0% 0.6 ポイント 94.0%	A	・目標値は若干クリアせずとも、前年度からは改善している。昨今の状況を鑑みると、よくやっている。 ・目標を 0.6 ポイント上回った。薬品の使用状況や購入価格等を分析し、適正な在庫管理や採用品目の見直し等を進め、薬品費の適正化を図られたい。 ・地道な取組により概ね目標を達成しており評価できる。類似病院とのベンチマーク比較などを通じた取組に期待する。 ・前年度から 1.5 ポイント改善している。急性期機能の縮小によるものである。
9. 委託費対修正医業収益比率 12.7%	14.0% 1.3 ポイント 90.7%	B	・目標値は若干クリアせず、前年度からも若干悪化している。昨今の状況を鑑みると、よくやっている。 ・目標を 1.3 ポイント上回った。委託業務の内容や費用対効果を検証し、契約内容や業務範囲等を見直すとともに、業務の効率化を図り、委託費の適正化に努められたい。 ・地道な取組により概ね目標を達成しており評価できる。類似病院とのベンチマーク比較などを通じた取組に期待する。 ・前年度から 1.1 ポイント悪化している。必要な人材の見直しを検討中である。
10. 後発医薬品の使用割合 94.5%	96.6% 2.1 ポイント 102.2%	A	・目標値はクリア、前年度からも改善している。 ・目標を上回っている。今後も後発医薬品の適正使用を推進するとともに、医療の質や安全性に配慮しながら、引き続き高い使用割合の維持に努められたい。 ・地道な取組により概ね目標を達成しており評価できる。類似病院とのベンチマーク比較などを通じた取組に期待する。

（３）経営の安定性に係る取組

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
11. 常勤医師数 15 人	14 人 △1.0 人 93.3%	A	・目標を 1 人下回った。今後も安定した医療提供体制を確保するため、大学医局等との連携や医師確保に向けた取組を進め、必要な医師数の確保に努められたい。 ・働き方改革など医師確保に苦慮する環境の中、概ね目標を達成していると評価する。

（４）経常収支比率及び修正医業収支比率に係る数値目標

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成度評価	主な意見
1. 経常収支比率 101.1%	97.7% △3.4 ポイント	A	・昨今の状況から、人件費・材料費等の費用削減が難しいため、入院収益アップによる改善をねらうのが現実的。特に「地域包括ケア病棟3病棟化」により、現状から年間＋８千万円程度の増収が見込める。 ・目標を 3.4 ポイント下回った。収益及び費用の状況を分析し、患者確保による医業収益の向上と経費の適正化を進め、経常収支の改善を図られたい。 ・概ね目標を達成しているが、近年の人勧を踏まえた給与費負担が重荷となっている。更なる病床の機能転換や看護体制見直しによる経営改善に期待する。 ・物価や人件費高騰の中で医業収益を増加させ前年度並みを維持。
2. 医業収支比率 91.9%	86.6% △5.3 ポイント	A	・昨今の状況から、人件費・材料費等の費用削減が難しいため、入院収益アップによる改善をねらうのが現実的。特に「地域包括ケア病棟3病棟化」により、現状から年間＋８千万円程度の増収が見込める。 ・目標を 5.3 ポイント下回った。入院・外来患者の確保や地域医療機関との連携を強化するとともに、診療体制や経費等を検証し、医業収益の確保と経費の適正化を図られたい。 ・概ね目標を達成しているが、近年の人勧を踏まえた給与費負担が重荷となっている。

			更なる病床の機能転換や看護体制見直しによる経営改善に期待する。 ・物価や人件費高騰の中で医業収益を増加させ前年度並みを維持。
3. 修正医業収支比率 85.3%	80.4% △4.9 ポイント	A	・昨今の状況から、人件費・材料費等の費用削減が難しいため、入院収益アップによる改善をねらうのが現実的。特に「地域包括ケア病棟3病棟化」により、現状から年間＋８千万円程度の増収が見込める。 ・目標を 4.9 ポイント下回った。医業収益の向上に向けた患者確保や地域連携を推進するとともに、職員配置や材料費、薬品費、委託費等の経費を適切に管理し、収支の改善を図られたい。 ・概ね目標を達成しているが、近年の人勧を踏まえた給与費負担が重荷となっている。更なる病床の機能転換や看護体制見直しによる経営改善に期待する。 ・物価や人件費高騰の中で医業収益を増加させ前年度並みを維持。

※目標達成度評価

Ｓ＝十分評価できる　Ａ＝評価できる　Ｂ＝普通である　Ｃ＝やや評価できない　Ｄ＝評価できない

３．令和７年度決算見込みの概要

（１）令和７年度決算見込みの概要

今年度は、救急搬送及び紹介患者の積極的な受け入れ、一般病床の一部を地域包括ケア病床へ機能転換するなど、地域に求められる医療の充実を図り、医業収益は前年度を上回りました。しかし、人事院勧告への対応や物価高騰・賃金上昇に伴う医業費用の増加がこの増収分を上回ったため、結果として増収減益となり、前年度に続き赤字の決算見込みとなりました。

医業収益については、入院収益が前年度を約６，６５９万円上回ったものの、外来収益及びその他医業収益の減収により、全体では前年度から約１，５０１万円増の約２６億６，４９６万円となりました。

一方、医業費用については、Ｃ型肝炎治療薬や新型コロナ感染症治療薬の減などによる材料費の減の一方で、人事院勧告に伴う人件費の増、賃金の上昇に伴う委託費の増や高額医療機器の更新に伴う減価償却費の増により、前年度から約１，９２３万円増の約３０億７，６５６万円となりました。

医業外収益については、国の緊急支援補助金４，６３９万円や他会計負担金や長期前受金の増により前年度から約８，３３９万円増の約４億４，５１３万円となりました。

医業外費用については、建設改良費に係る消費税雑損の増により前年度よりも約９８１万円増の約１億５３０万円となりました。

結果として、経常損益は前年度から約６，９３６万円の増となる約７，１７８万円の損失となり、当年度純損益は約６，４８３万円増の約７，８０１万円の損失となりました。

また、当年度純損失が生じたものの、前年度からの内部留保資金により、公営企業年鑑経営分析指標の算式による不良債務額は発生しておりません。

【令和７年度決算見込と前年度決算の比較】

（単位：千円）

項目＼年度		R6年度 決算（税抜）	R7年度 決算見込（税抜）	R6年度 との増減額	備考
	医業収益	2,649,947	2,664,956	15,009	
	医業費用	3,057,329	3,076,562	19,233	
医業損益		△ 407,382	△ 411,606	△ 4,224	
	医業外収益	361,736	445,125	83,389	
	医業外費用	95,495	105,302	9,807	
経常損益		△ 141,141	△ 71,783	69,358	
	特別利益	267	45	△ 222	
	特別損失	1,971	6,274	4,303	
当年度純損益		△ 142,845	△ 78,012	64,833	
不良債務額		△ 157,678	△ 53,976	103,702	

注：不良債務額のマイナス表記は不良債務が発生していないことを表します。

（２）収益的収支の概要

医業収益については、入院患者数が年間を通じて安定したことにより、入院収益は前年度から約６，６５９万円の増の約１６億４，５３１万円となりました。一方、外来収益はＣ型肝炎治療患者や発熱患者の減少により、前年度から約３，８６４万円の減の約６億８，００４万円となりました。その他の医業収益では、前年度と比較し、救急受入れに係る他会計負担金が約５１０万円、また利用者の減少に伴う人間ドック等の医療相談収益が約６１５万円、それぞれ減少しました。その結果、その他医業収益の合計は、前年度から約１，２９５万円の減の約３億３，９６１万円となりました。

医業収益全体では前年度から約１，５０１万円増の約２６億６，４９６万円となりました。

医業費用については、給与費では人事院勧告の対応による増がありましたが、中途退職などにより、前年度から約２，３０４万円の増に留まりました。

材料費では、薬品費について、Ｃ型肝炎や新型コロナウイルス感染症の治療薬などが減少し、前年度から約３，５０２万円の減となりました。一方で、食材費の高騰などにより給食材料費は前年度から約３８０万円の増となりました。材料費全体では、前年度から約３，６０６万円の減となりました。

経費では、賃金の上昇及び燃料費の高騰に伴う洗濯業務委託、医事業務委託等の増と、以前更新した放射線関連システム等の医療機器の保守委託の増により、委託費が前年度から約３，０６４万円の増となりました。一方で、電気料等の光熱水費は前年度から約１９８万円の減、医師紹介手数料等の減に伴い、手数料は前年度から約２８７万円の減となりましたが経費全体としては、前年度から約２，０５４万円の増となりました。

また、前年度に更新した高周波手術機器や内視鏡スコープ等の医療機器の減価償却の開始により減価償却費が前年度から約１，０２７万円の増となり、約１億８，５０２万円となりました。

医業費用全体では、前年度から約１，９２３万円の増の約３０億７，６５６万円となりました。

この結果、医業損益としては、前年度から約４２２万円の減の約４億１，１６１万円の損失となりました。

医業外収益は、「医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業費補助金」による国庫補助金の収入があり、前年度から約８，３３９万円の増の約４億４，５１３万円となりました。

医業外費用は、建設改良費に係る消費税雑損等の発生により、前年度から約９８１万円の増の約１億５３０万円となりました。

医業損益に医業外収益及び医業外費用を含めた経常損益は、前年度から約６，９３６万円の増の約７，１７８万円の損失となり、これに特別利益及び特別損失を合わせた当年度純損益としては約６，４８３万円の増の約７，８０１万円の損失となりました。

【収益的収支の決算見込み概要】

（単位：千円）

項目＼年度	R6年度 決算(税抜)	R7年度 決算見込(税抜)	R6年度 との増減額	備考
医業収益	2,649,947	2,664,956	15,009	
入院収益	1,578,713	1,645,305	66,592	
外来収益	718,679	680,044	△ 38,635	
その他医業収益	352,555	339,607	△ 12,948	
医業費用	3,057,329	3,076,562	19,233	
給与費	2,004,151	2,027,189	23,038	
材料費	405,184	369,125	△ 36,059	
経費	468,784	489,326	20,542	
減価償却費	174,758	185,024	10,266	
資産減耗費	570	1,145	575	
研究研修費	3,882	4,753	871	
医業損益	△ 407,382	△ 411,606	△ 4,224	
医業外収益	361,736	445,125	83,389	
他会計負担金	155,324	181,943	26,619	
他会計補助金	63,301	65,583	2,282	
患者外給食収益	1,008	927	△ 81	
その他医業外収益	15,525	14,510	△ 1,015	
県補助金	2,303	6,000	3,697	
長期前受金戻入	124,275	129,767	5,492	
国庫補助金	0	46,395	46,395	
医業外費用	95,495	105,302	9,807	
支払利息等	2,626	3,790	1,164	
患者外給食材料費	1,426	1,369	△ 57	
雑損失	91,443	100,143	8,700	
経常損益	△ 141,141	△ 71,783	69,358	
特別利益	267	45	△ 222	
過年度損益修正益	267	45	△ 222	
特別損失	1,971	6,274	4,303	
過年度損益修正損	1,971	6,274	4,303	
当年度純損益	△ 142,845	△ 78,012	64,833	

（３）資本的収支の概要

令和７年度の機器整備としては、手術室の近赤外蛍光カメラシステム、内視鏡システムなどの医療機器整備に加え、「医療機関等におけるマイナンバーカード利活用推進事業」の助成金を活用した発熱患者や訪問診療等におけるオンライン資格確認用モバイル端末の導入を行いました。

また、老朽化対策の一環として、病棟の屋上防水改修工事、駐車場フェンスの改修工事を行いました。その他の施設整備としては、外来棟の空調設備改修や救急室及び内視鏡検査室のエアコン設置工事を行いました。

さらに、療養環境の向上と職場環境の改善を図るため、「塩竈市立病院改修工事設計業務委託」を実施し、次年度からの病院改修に向けて、調査及び設計を進めました。主な改修内容としては、病棟の内装改修と二重サッシ化、病棟トイレ等の全面改修、病室への医療用電源や医療ガス配管を組み込んだウォールケアユニットの設置、病棟出入口への管理用扉の新設などです。また、経年劣化が著しく耐用年数を大幅に経過しているナースコール、電話交換機等の設備更新を行います。

資本的収入の内訳は、企業債償還元金や当年度の建設改良費に対する繰入金となる他会計補助金が、前年度から約３，１４０万円の増の約１億１，６８７万円となりました。

建設改良費の財源としては県補助金等収入が約２０４万円、企業債借入が２億２，４３０万円となりました。資本的収入全体では、前年度から約１億４，３５７万円の増の約３億４，３２１万円となりました。

資本的支出としては、建設改良費は前年度から約１億１，０２４万円の増の約２億２，８８３万円、企業債償還金が前年度から約６，２７９万円増の約２億１，６０６万円となり、全体では前年度から約１億７，３０３万円増の４億４，４８９万円となりました。

【資本的収支の決算見込み】

（単位：千円）

項目＼年度	R6年度 決算(税込)	R7年度 決算見込(税込)	R6年度 との増減額	備考
資本的収入	199,641	343,209	143,568	
他会計補助金等	85,471	116,872	31,401	
県補助金等	10,070	2,037	△ 8,033	
企業債	104,100	224,300	120,200	
資本的支出	271,859	444,886	173,027	
建設改良費	118,585	228,827	110,242	
企業債償還金	153,274	216,059	62,785	
差引	△ 72,218	△ 101,677	△ 29,459	

（４）一般会計繰入金の概要

収益的収入に係る一般会計繰入金の主な増減としては、医業収益に係る繰入金では、他会計負担金が救急医療の確保に要する経費への繰入額が前年度から約５１０万円の減の約１億９，１７８万円となり、医業外収益に係る繰入金では、他会計負担金がリハビリテーション医療や在宅医療等に要する経費等への繰入額が前年度から約２，６６２万円の増の１億８，１９４万円となりました。

資本的収入に係る繰入金を含む一般会計繰入金の合計は、前年度から約３，１４０万円の増となる約１億１，６８７万円となりました。

【一般会計繰入金に係る前年度との比較】

（単位：千円）

繰入金内訳	R6年度 決算額	R7年度 決算見込	R6年度 との増減額	備　考
医業収益	196,885	191,784	△ 5,101	
他会計負担金	196,885	191,784	△ 5,101	
医業外収益	218,625	247,526	28,901	
他会計負担金	155,324	181,943	26,619	
他会計補助金	63,301	65,583	2,282	
特別利益	0	0	0	
他会計補助金	0	0	0	
収益的収入計(A)	415,510	439,310	23,800	
資本的収入	85,471	116,872	31,401	
他会計補助金	85,471	116,872	31,401	
資本的収入計(B)	85,471	116,872	31,401	
繰入金総計(A)+(B)	500,981	556,182	55,201	

（５）収益的収支の決算見込みとプラン比較

医業収益については、入院と外来収益の合計が強化プランの計画を約６，９６７万円下回ったことにより、計画を約８，９０３万円下回り約２６億６，４９６万円となりました。

医業費用については、給与費にて人事院勧告への対応の影響により計画を約７，９８０万円上回った一方で、材料費については計画を約２８５万円下回りました。また、経費では、賃金の上昇及び燃料費の高騰に伴う洗濯業務委託、医事業務委託等の増により計画を約１，１６４万円上回りました。その結果、医業費用の合計は、計画を約８，０２７万円上回り約３０億７，６５６万円となりました。

医業外収益は、「医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業費補助金」による国庫補助金の収入があり、計画を約６，８７２万円上回り約４億４，５１３万円となりました。

医業外費用は、建設改良費に係る消費税雑損等の発生により計画を約５４５万円上回り、約１億５３０万円となりました。

その結果、経常損益は計画を約１億６０３万円下回る約７，１７８万円の損失となり、当年度純損益は計画を約１億１，２２５万円下回る約７，８０１万円の損失となりました。

【収益的収支の決算見込みとプラン比較】

（単位：千円）

項目＼年度	R7年度 プラン(税抜)	R7年度 決算見込(税抜)	R7年度プラン との増減額	備考
医業収益	2,753,982	2,664,956	△ 89,026	
入院収益	1,696,319	1,645,305	△ 51,014	
外来収益	698,700	680,044	△ 18,656	
その他医業収益	358,963	339,607	△ 19,356	
医業費用	2,996,296	3,076,562	80,266	
給与費	1,947,389	2,027,189	79,800	
材料費	371,978	369,125	△ 2,853	
経費	477,682	489,326	11,644	
減価償却費	189,954	185,024	△ 4,930	
資産減耗費	200	1,145	945	
研究研修費	9,093	4,753	△ 4,340	
医業損益	△ 242,314	△ 411,606	△ 169,292	
医業外収益	376,407	445,125	68,718	
医業外費用	99,851	105,302	5,451	
経常損益	34,242	△ 71,783	△ 106,025	
特別利益	1,000	45	△ 955	
特別損失	1,000	6,274	5,274	
当年度純損益	34,242	△ 78,012	△ 112,254	

（６）資本的収支の決算見込みとプラン比較

資本的収入の内訳は、他会計補助金では計画を約４７１万円上回り約１億１，６８７万円となり、企業債借入金については、計画を約１億７，３７０万円上回る約２億２，４３０万円となりました。補助金収入を含めた資本的収入全体では、計画を約１億８，０４５万円上回る約３億４，３２１万円となりました。

資本的支出の内訳は、建設改良費は老朽化に伴う施設改良などにより計画を約１億７，３８３万円上回る約２億２，８８３万円となりました。また、企業債償還金は計画を約９４２万円上回る約２億１，６０６万円となりました。資本的支出全体としては計画を約１億８，３２５万円上回る約４億４，４８９万円となりました。

【資本的収支の決算見込みとプラン比較】

（単位：千円）

項目＼年度		R7年度 プラン(税込)	R7年度 決算見込(税込)	R7年度プラン との増減額	備　考
資本的収入		162,761	343,209	180,448	
	他会計補助金等	112,161	116,872	4,711	
	県補助金・寄付金等	0	2,037	2,037	
	企業債	50,600	224,300	173,700	
資本的支出		261,635	444,886	183,251	
	建設改良費	55,000	228,827	173,827	
	企業債償還金	206,635	216,059	9,424	
差引		△ 98,874	△ 101,677	△ 2,803	

（７）一般会計繰入金のプラン比較

一般会計繰入金については、経営強化プランとの比較では、計画を約１，８４８万円上回る約５億５，６１８万円となりました。

【一般会計繰入金に係るプラン比較】

（単位：千円）

繰入金内訳		R7年度 プラン	R7年度 決算見込	R7年度プラン との増減額	備　考
医業収益		196,885	191,784	△ 5,101	
	他会計負担金	196,885	191,784	△ 5,101	
医業外収益		228,657	247,526	18,869	
	他会計負担金	165,356	181,943	16,587	
	他会計補助金	63,301	65,583	2,282	
特別利益		0	0	0	
	他会計補助金	0	0	0	
収益的収入計(A)		425,542	439,310	13,768	
資本的収入		112,161	116,872	4,711	
資本的収入計(B)		112,161	116,872	4,711	
繰入金総計(A)+(B)		537,703	556,182	18,479	

4．総合的な評価

（1）総合的な評価

目標項目	目標達成度評価	主な意見
1. 役割・機能の最適化と連携の強化が果たされているか	A	・他院からの回復期病棟へのスムーズな転院が可能になれば、さらに病床利用率が上がると思われる。 ・地域包括ケア病棟への転換や、紹介率・逆紹介率増加の状況などから、地域医療における自治体病院の役割を踏まえ積極的に取り組まれているものと評価する。 ・全般によく頑張っている。「高齢者救急・地域急性期機能」と「在宅医療等連携機能」の双方を併せ持つ病院を目指すべきであり、そのためにも「地域包括ケア病棟3病棟化」は必須。地域住民からの信頼も篤く、医療機能等の整備も着々と進んでおり頼もしい。あとは、早急に収益アップを図ることである。 ・紹介患者数、逆紹介患者数、他院からの入院患者受入件数、訪問診療・訪問リハ等、多くの地域連携に関する指標で目標を上回っている。一方、地域救急貢献率や一部の入院・外来患者数、レスパイト入院等に未達項目もあることから、概ね良好な取組と評価できる。 ・地域包括ケア病床への機能転換が進み、地域における病院の役割が明確化され、急性期病棟と地域包括ケア病棟の両方をバランスよく持つことで、幅広い患者ニーズに対応可能な病院として評価できる。 ・新たな地域医療構想の検討状況を注視しながら、更なる役割・機能の最適化に期待する。 ・包括期医療を中心とする方針が明確になっている。高齢者救急や在宅医療にも積極的に取り組み連携が進んでいる。
2. 医師・看護師等の確保と働き方改革に取組んでいるか	A	・常勤医師数が目標を１人下回っており、医療従事者の確保には課題が残る。また、職員給与費対修正医業収益比率も目標を上回っていることから、人員確保と経営面のバランスを踏まえた取組が必要である。 ・老朽施設という制約はあるが、一定の取組がなされていると評価できる。 ・大学医師による専門外来、夜間・休日の当直の応援が得られ A 水準となっている。看護師等の職員の補充もしっかり行われている。

3．新興感染症の拡大時等に備え、平時から取組んでいるか	A	・感染症の発生・拡大時に対応できるよう、平時から院内の体制整備や関係機関との連携を進める必要がある。今後も感染症発生時を想定した訓練や情報共有、医療機関・行政等との連携を継続し対応力の向上を図られたい。 ・老朽施設という制約はあるが、一定の取組がなされていると評価できる。 ・ICN（認定看護師）を中心に、ICT（院内感染対策チーム）、AST(抗菌薬適正支援チーム) 活動が盛んである。感染症対応の3床を確保しているが、設備面が不十分である。
4．施設・設備の最適化に取組んでいるか	A	・持続可能かつより快適な医療提供体制の確保に向け、病院改修工事に着手されており、予算の制約がある中で計画的に進められているものと評価する。 ・「地域包括ケア病棟3病棟化」により、病棟改修による患者アメニティの向上が、経済効果となって顕在化すると思われる。 ・CT 検査・MRI 検査は目標を大きく上回っており、既存の医療機器を有効に活用していることがうかがえる。一方、病床利用率や入院患者数等には未達も見られるため、病床・医療機器等の稼働状況を踏まえ、より効率的な施設・設備の活用を進める必要がある。 ・施設の老朽化が著しく、かつ予算面で制約がある中で、効果的な改修・修繕に取り組んでいると評価できる。 ・移転、新築が延期となったため、大規模改修に着手する。緊急性の高い老朽化対策は実施済みであり、病棟の改修に入る（令和8年12月頃より2年間）。
5．積極的に経営の効率化に取組んでいるか	A	・全般によく頑張っていると思うが、まだまだ有効な経営改善策が残っている。特に、「地域包括ケア病棟3病棟化」については、可及的速やかな実施が望まれる。 ・後発医薬品の使用割合や一部の収益指標は目標を上回っている一方、職員給与費、材料費、薬品費、委託費の各比率は目標を上回り、経常収支比率、医業収支比率、修正医業収支比率も目標を下回っている。今後は収益確保と経費の適正化を両面から進め、経営改善に取り組む必要がある。 ・経営健全化会議や常勤医師による病院経営会議など、院内全体で経営効率化に取り組んでいると評価できる。 ・公立病院としての使命発揮とともに、医療圏における役割・分担を意識し、経営の持続性を目指した更なる取り組みに期待する。

		・職員全員の意識向上に努めていく。

※目標達成度評価

Ｓ＝十分評価できる　Ａ＝評価できる　Ｂ＝普通である　Ｃ＝やや評価できない　Ｄ＝評価できない

（２）総評

総評として、全国的に病院経営が極めて厳しい状況にある中、令和７年度においても塩竈市立病院は、地域に必要とされる医療を安定的に提供し、公立病院としての役割を着実に果たしている。

特に、急性期病床の一部を地域包括ケア病床へ機能転換するとともに、地域の医療機関や介護関係機関との連携強化、紹介・逆紹介の推進、訪問診療等の充実に積極的に取り組んでおり、地域包括ケアシステムにおいて、地域の中で中心的な役割を果たしていることは評価に値する。

経営面では、入院患者数の増加等による入院収益の増加に加え、国の緊急支援補助金の受入れ等により、収益は前年度から改善した。一方、物価高騰や賃金上昇に伴う経費の増加等により、前年度に引き続き赤字決算となった。病院経営を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、損失額を改善したことは、一定の経営改善の成果として評価できる。

高齢化の進展に伴う医療需要の変化を踏まえ、塩竈市立病院には、高齢者救急への対応、急性期治療後の患者の受入れ、在宅復帰支援及び在宅療養を支える医療機能を一層充実させ、地域で求められる役割を果たしていくことが望まれる。今年度に実施した一般病棟１７床の地域包括ケア病床への機能転換は、その方向性に沿った重要な取組である。今後は、新たな地域医療構想の動向及び地域ニーズを踏まえ、地域包括ケア病床の更なる拡充を含め、病床機能の最適化を継続して検討されたい。

また、施設の老朽化への対応は喫緊の課題である。病院改修工事に向けた設計業務委託を契機として、令和８年度からの大規模改修事業を着実に推進し、療養環境の向上及び職員が働きやすい環境の整備につなげられたい。

今後も、収益の確保と経費の適正化を両輪として経営改善を進め、今以上に市民から愛され、地元の「信頼できる」自治体病院として、「選ばれる」、「誇り高い病院」となるために経営力の強化を期待する。

【参考資料】

（１）塩竈市立病院事業の主な経営指標

塩竈市立病院経営強化プランの主な指標についての推移を示します。

①主要な経営指標

（単位：％）

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 ※注1	R6全国類似団体平均
病床利用率	71.3	73.0	72.2	70.9	70.7	75.9	67.1
経常収支比率	100.2	100.4	107.1	100.4	95.5	97.7	91.6
医業収支比率	89.4	92.8	93.3	92.2	86.7	86.6	77.4
修正医業収支比率	82.5	85.6	86.2	85.2	80.2	80.4	73.2

（出典：総務省 各年度病院経営比較表）

※ 注１ Ｒ７年度数値は、塩竈市立病院事業会計決算見込み値

②医師一人当たりの患者数

（単位：人・上段は塩竈市立病院、下段（ ）は全国類似団体平均）

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
入院	5.7 (5.8)	5.9 (4.8)	5.8 (4.9)	5.7 (5.0)	5.4 (5.3)	5.9 (－)
外来	7.5 (10.0)	8.0 (9.3)	8.0 (9.8)	7.8 (9.6)	7.2 (9.7)	7.1 (－)

（出典：総務省 各年度病院経営比較表）

（２）宮城県内主要公立病院との比較

①修正医業収支比率及び修正医業収益

（単位：上段 ％・下段 億円）

病院名(病床数)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
塩竈市立病院 (161)	82.5 (22.5)	85.6 (24.2)	86.2 (24.5)	85.2 (24.0)	80.2 (24.5)	80.4 (24.7)
仙台市立病院 (525)	82.0 (142.9)	82.5 (145.6)	84.8 (158.9)	88.9 (172.1)	85.2 (171.3)	
石巻市立病院 (180)	55.3 (24.1)	59.4 (26.1)	61.6 (26.9)	65.4 (28.4)	65.7 (29.4)	
気仙沼市立病院 (340)	74.5 (72.9)	76.7 (76.1)	79.0 (79.0)	80.5 (81.2)	80.6 (87.2)	
登米市民病院 (198)	74.6 (34.1)	77.7 (37.1)	78.1 (36.8)	76.7 (37.5)	77.0 (39.7)	
栗原中央病院 (313)	78.8 (45.6)	80.4 (48.3)	83.9 (49.9)	79.5 (47.0)	71.4 (44.1)	
大崎市民病院 (500)	90.4 (185.1)	93.2 (198.2)	93.2 (206.2)	91.8 (213.8)	91.0 (219.1)	
刈田綜合病院 (199)	64.5 (30.7)	65.4 (25.0)	66.0 (23.7)	0.3 (0.03)	0.6 (0.03)	
県南中核病院 (310)	84.5 (79.4)	87.1 (86.4)	88.8 (92.7)	88.7 (98.5)	82.4 (96.5)	

（出典：総務省 各年度病院経営比較表）

※ 刈田綜合病院は、令和５年４月１日から公設民営化指定管理者制度導入により数値に大きな変化が生じている。

※ Ｒ７年度数値は、Ｒ７年度塩竈市立病院事業会計決算見込み値

②他会計繰入金対総収益比率

（単位：上段 ％・下段 億円）

病院名(病床数)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
塩竈市立病院 (161)	15.9 (4.5)	14.2 (4.2)	13.3 (4.2)	13.5 (4.0)	13.8 (4.2)	14.1 (4.4)
仙台市立病院 (525)	10.8 (20.3)	9.3 (19.3)	9.2 (18.6)	9.9 (19.8)	10.0 (19.5)	
石巻市立病院 (180)	23.4 (11.4)	14.3 (9.7)	15.6 (7.1)	17.4 (7.5)	18.0 (7.7)	
気仙沼市立病院 (340)	8.7 (9.8)	9.9 (11.2)	9.2 (10.4)	10.3 (10.8)	10.8 (11.5)	
登米市民病院 (198)	18.8 (10.1)	16.1 (9.3)	16.2 (8.9)	16.4 (8.3)	16.3 (8.4)	

病院名(病床数)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
栗原中央病院 (313)	14.2 (9.0)	12.1 (7.8)	12.3 (7.8)	13.5 (7.9)	14.8 (8.1)	
大崎市民病院 (500)	7.7 (12.8)	7.0 (16.5)	6.9 (16.5)	7.5 (18.5)	6.2 (15.1)	
刈田綜合病院 (199)	12.9 (5.6)	13.5 (4.5)	22.8 (7.7)	92.6 (8.9)	97.1 (7.0)	
県南中核病院 (310)	9.0 (8.8)	8.7 (9.5)	8.2 (9.2)	7.7 (8.7)	7.4 (8.0)	

(出典：総務省 各年度病院経営比較表)

※ 刈田綜合病院は、令和５年４月１日から公設民営化指定管理者制度導入により数値に大きな変化が生じている。

※ R7年度数値は、R7年度塩竈市立病院事業会計決算見込み値

③患者１人当たり診療単価

(単位：円・上段 入院・下段 外来)

病院名(病床数)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
塩竈市立病院 (161)	35,735 10,985	36,359 12,157	36,334 12,795	36,519 12,661	37,996 12,820	36,894 12,644
仙台市立病院 (525)	73,658 18,349	79,005 19,425	80,372 19,297	84,733 19,839	84,714 20,368	
石巻市立病院 (180)	39,144 12,744	38,308 13,341	40,006 14,828	39,526 14,108	38,247 13,923	
気仙沼市立病院 (340)	48,881 14,180	49,716 14,488	52,175 15,321	49,153 15,766	49,700 15,153	
登米市民病院 (198)	37,878 14,557	39,697 14,731	40,751 15,099	41,971 14,693	43,142 14,512	
栗原中央病院 (313)	46,759 11,290	50,308 11,525	51,899 11,754	51,842 11,599	55,491 11,607	
大崎市民病院 (500)	77,281 25,721	81,093 27,564	82,618 27,381	86,556 27,852	89,388 30,424	
刈田綜合病院 (199)	40,930 11,558	37,496 12,073	35,824 12,774	－ －	－ －	
県南中核病院 (310)	63,234 14,824	66,845 14,294	70,598 16,002	69,222 17,330	70,919 17,894	

(出典：総務省 各年度病院経営比較表)

※ 刈田綜合病院は、令和５年４月１日から公設民営化指定管理者制度導入により数値に大きな変化が生じている。

※ R7年度数値は、R7年度塩竈市立病院事業会計決算見込み値

塩竈市立病院事業調査審議会委員名簿

（順不同　敬称略）

【委　員】

委員名	職名等	備考
藤森　研司	東北大学名誉教授	会長
平澤　頼久	宮城県塩釜医師会会長	副会長
佐藤　賢一	東北医科薬科大学病院 統括病院長	
武田佳奈恵	宮城県保健福祉部医療政策課地域医療連携担当課長	
今西　陽一郎	株式会社アイブレイン代表取締役 病院事業経営アドバイザー	
小野　憲幸	市民代表（福祉）	
千葉　幸太郎	塩竈市副市長	
福原　賢治	塩竈市立病院事業管理者	